

## 《人づくり分野》

生涯学習部

2015年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	社会教育総務費
				事業類型	c:その他型

I 組織概要

組織の使命	生涯学習部の総務担当課として適切な部内運営に寄するとともに、生涯学習に関する基本方針に基づき、関係部署が事業を円滑に推進できるようにします。また、町田市固有の文化財・歴史資料の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。
所管する事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生涯学習部の総務担当課の事務等に関すること。</li> <li>◆生涯学習及び社会教育の基本的な方針に関すること。</li> <li>◆生涯学習審議会、社会教育委員及び文化財保護審議会に関すること。</li> <li>◆文化財の保護、調査及び収集等に関すること。</li> <li>◆考古資料室に関すること。</li> </ul>

II.2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆主要な事業(高ヶ坂石器時代遺跡整備事業、旧荻野家住宅保存修理事業、西谷戸横穴墓群整備事業)については、国や東京都からの補助が不可欠であり、引き続き、国および東京都と調整を行い、補助金を確保することが必要です。  
 ◆指定史跡・指定有形文化財などの文化財保護や考古資料室の運営に行政コストを投資することについて、市民の十分な理解が得られるよう、より積極的に文化財の公開、活用を推進していく必要があります。

III.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習審議会の開催回数	回	目標	-	-	-	-	町田市生涯学習審議会の年間開催回数
		実績	6	7	6		
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	保存管理計画策定	整備基本設計作成	整備実施設計作成	整備完了 (2018年度)	国指定史跡である高ヶ坂石器時代遺跡(牢場遺跡・稲荷山遺跡・八幡平遺跡)整備事業の進捗状況
		実績	保存管理計画策定	整備基本設計作成	整備実施設計作成		
考古資料室の見学者数	人	目標	-	-	-	-	考古資料室年間見学者数
		実績	250	262	313		

◆生涯学習部の総務担当課として、関係部署との連絡・調整や部内の総合調整、文書の取りまとめなどを行い、適切な部内組織運営を確保しました。  
 ◆2014年8月に町田市生涯学習審議会に諮問し、議論を深めてきた「地域社会の課題に対応する生涯学習のさらなる充実に向けた仕組み」について、6回の審議会を開催し、2016年3月に答申を受け取りました。  
 ◆高ヶ坂石器時代遺跡については、整備検討委員会(3回実施)に諮りながら整備実施設計を作成しました。また、旧荻野家住宅については、2014年度に着手した保存修理工事を2016年2月に完了させました。多くの市民に文化財への理解を深めてもらえるよう、工事期間中には、2014年度に引き続き工事現場見学会を開催したほか、工事完了後には、通常は入ることができない室内を解説付きで公開するイベントを開催しました。  
 ◆考古資料室見学者数は、団体見学者数の増加により20%(51人)増加しました。アウトリーチ展示は、2014年度より1回増やし4回実施しました。

IV.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	98,657	106,983	99,523	△ 7,460	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	6,625	4,476	2,806	△ 1,670	保険料	0	0	0	0
物件費	26,291	30,957	31,547	590	国庫支出金	4,794	4,214	5,745	1,531
うち委託料	24,976	29,525	30,625	1,100	都支出金	6,011	20,044	41,313	21,269
維持補修費	401	26,431	16,124	△ 10,307	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	1,870	313	383	70
補助費等	1,548	7,296	2,454	△ 4,842	その他	852	0	0	0
減価償却費	7,100	7,100	7,100	0	行政収入 小計(a)	13,527	24,571	47,441	22,870
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 138,603	△ 173,278	△ 122,983	50,295
賞与・退職手当引当金繰入額	18,133	19,082	13,676	△ 5,406	金融収支差額 (d)	△ 245	△ 245	△ 242	3
行政費用 小計 (b)	152,130	197,849	170,424	△ 27,425	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 138,848	△ 173,523	△ 123,225	50,298
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	41,880	0	30,900	30,900
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	41,880	0	30,900	30,900	当期収支差額 (e)+(h)	△ 96,968	△ 173,523	△ 92,325	81,198

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡整備実施設計業務委託料 7,938千円 西谷戸横穴墓群整備工事実施設計業務委託料 5,832千円 村野常右衛門生家耐震診断・補強計画作成委託料 3,600千円 埋蔵文化財調査委託料(単価契約9件) 3,056千円 など	決算額の主な内訳	西谷戸横穴墓群整備工事費 15,543千円 西谷戸横穴墓群崩落防止支保工工事費 508千円 旧永井家住宅天井感知器修繕料 30千円 網戸修繕料 26千円 など
主な増減理由	西谷戸横穴墓群整備事業が実施設計作成等に移行したため委託料が3,775千円増加。 市有文化財の管理について緊急案件(シロアリ発生等)が発生しなかったため、委託料が2,407千円減少。	主な増減理由	旧荻野家住宅保存修理工事費を事業用資産(薬師池四季彩の杜事業で計上)に計上する必要があったため、工事費が26,364千円減少。西谷戸横穴墓群整備事業が工事に着手したことにより、工事費が16,051千円増加。
勘定科目	都支出金	勘定科目	特別収入
決算額の主な内訳	旧荻野家住宅保存修理事業費補助金 26,119千円 西谷戸横穴墓群整備事業費補助金 12,302千円 高ヶ坂石器時代遺跡総合活用整備事業費補助金 1,822千円 埋蔵文化財調査事業費補助金 1,050千円 など	決算額の主な内訳	過年度損益修正益 30,900千円 (旧荻野家住宅保存修理工事実施設計業務委託料 4,536千円) (旧荻野家住宅保存修理工事費 26,364千円)
主な増減理由	旧荻野家住宅保存修理事業費補助金が2014年度より増えたため、補助金が10,669千円増加。 西谷戸横穴墓群整備が実施設計作成等に移行したため、補助金が9,835千円増加。	主な増減理由	2014年度に実施した旧荻野家住宅保存修理工事の実実施設計業務委託料と工事費について、過年度分として新たに事業用資産(薬師池四季彩の杜事業で計上)に計上する必要があったため、30,900千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	5,675	5,780	105
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	1,089	1,102
固定資産	有形固定資産	724,469	717,369	△ 7,100		賞与引当金	4,586	4,678
	土地	635,475	635,475	0		その他の流動負債	0	0
	建物(取得価額)	240,675	240,675	0	固定負債	108,565	106,735	△ 1,830
	建物減価償却累計額	△ 151,681	△ 158,781	△ 7,100		地方債	19,311	18,210
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	89,254	88,525
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0
	建設仮勘定	0	0	0		負債の部合計	114,240	112,515
	その他の固定資産	0	0	0	純資産	610,229	604,854	△ 5,375
資産の部合計	724,469	717,369	△ 7,100	純資産の部合計	610,229	604,854	△ 5,375	
				負債及び純資産の部合計	724,469	717,369	△ 7,100	

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	田端遺跡 220,285千円 高ヶ坂石器時代遺跡 192,014千円 武相荘(旧白洲邸)の一部 70,287千円 小山田1号遺跡 57,385千円 考古資料室 54,688千円 など	決算額の主な内訳	考古資料室 131,142千円 村野常右衛門生家 91,113千円 旧永井家住宅 14,461千円 武相荘(旧白洲邸)倉庫 3,959千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の原価償却により事業用資産が7,100千円減少。	主な増減理由	

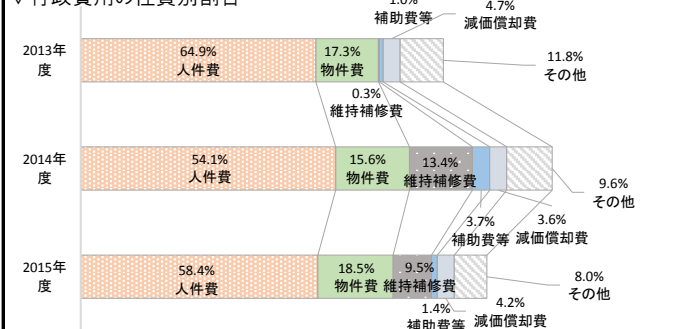
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	47,441	社会資本整備等投資活動収入	11,170	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	164,203	社会資本整備等投資活動支出	52,239	財務活動支出	1,089
行政サービス活動収支差額(a)	△ 116,762	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 41,069	財務活動収支差額(c)	△ 1,089
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 158,920
				一般財源充当調整額	158,920

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI.個別分析

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2015 合計	2014 合計
生涯学習審議会事務	0.9					0.9	1.0
生涯学習総務課管理事務	3.4					3.4	3.2
文化財保護事務	5.4					5.4	6.4
考古資料室管理事務	0.3					0.3	0.4
						0.0	0.0
2015年度 歳出目 合計	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	11.0
2014年度 歳出目 合計	10.0	0.0	1.0	0.0	0.0	11.0	

VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆ 主な事業である高ヶ坂石器時代遺跡整備事業、旧荻野家住宅保存修理事業、西谷戸横穴墓群整備事業については予定どおり進捗しました。国指定史跡である高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、国及び都から補助(対象経費の75%)を受けています。都指定有形文化財である旧荻野家住宅保存修理事業、都指定史跡である西谷戸横穴墓群整備事業は、都から補助(対象経費の50%)を受けています。
- ◆ 文化財普及事業では、歴史講座、イベントなど19回(主催3回、共催11回、職員派遣5回)に関わり、文化財係職員が講義、解説を行いました。特に行政費用がかかっている文化財の整備工事過程を積極的に公開しました。
- ◆ アウトリーチ展示を2013年度から毎年1回ずつ増やし、考古資料室の広報に努めた結果、団体見学者数が増加し、考古資料室見学者数が20%増加しました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◇ 国や都からの補助を受けて実施している事業は、補助の継続が不可欠であることから、引き続き、補助金の確保に努めるとともに、補助率が低下した場合には、事業への影響を最小限に抑えるために事業の見直しが必要となります。
- ◆ 文化財保護事業では、整備事業の完了後の遺跡などを多くの市民に見ていただけるような公開、活用を図っていく必要があります。
- ◆ 考古資料室事業では、多くの市民に所蔵資料を見ていただくために、高い集客効果が見込めるアウトリーチ展示の内容を工夫する必要があります。

2015年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
----	-------	------	---------

歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	文化財保護事業	事業類型	4:その他型
------	---------	-------	---------	------	--------

I. 事業概要

事業目的	町田市固有の文化財・歴史資料の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。
基本情報	<p>根拠法令等 文化財保護法、東京都文化財保護条例、町田市文化財保護条例及び同施行規則、町田市文化財保護事業費補助金交付要綱</p> <p>◆2015年度において市内には69件(国指定2件、都指定16件、市指定51件)の指定文化財と3件(市登録3件)の登録文化財があります。これらの保護・維持・管理及び公開・活用に関する事業を行っています。</p> <p>◆市内に分布する1,000箇所を超える周知の埋蔵文化財包蔵地について土地開発行為への指導、発掘調査、保護を行っています。</p>

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆主要な事業(高ヶ坂石器時代遺跡整備事業、旧荻野家住宅保存修理事業、西谷戸横穴墓群整備事業)については、国や東京都からの補助が不可欠であり、引き続き、国および東京都と調整を行い、補助金を確保することが必要です。

◆指定史跡や指定有形文化財などの文化財保護に行政コストを投資することについて、市民の十分な理解が得られるよう、より積極的に文化財の公開、活用を推進していく必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	保存管理計画策定	整備基本設計作成	整備実施設計作成	整備完了 (2018年度)	国指定史跡である高ヶ坂石器時代遺跡(牟場遺跡・稲荷山遺跡・八幡平遺跡)整備事業の進捗状況
		実績	保存管理計画策定	整備基本設計作成	整備実施設計作成		
古民家保存事業進捗状況	-	目標	耐震診断、補強計画書作成	実施設計作成、保存修理工事着工	保存修理工事完了	保存修理工事完了 (2015年度)	東京都指定有形文化財である旧荻野家住宅保存修理事業の進捗状況
		実績	耐震診断、補強計画書作成	実施設計作成、保存修理工事着工	保存修理工事完了		

◆高ヶ坂石器時代遺跡については、整備検討委員会に諮りながら整備実施設計を作成しました。牟場遺跡は遺跡発見時(1925年)以来の再確認調査を実施しました。市民に遺跡を身近に感じてもらえるよう、再確認調査時には見学会を開催し28名の参加がありました。稲荷山遺跡の支障樹木を伐採して整備工事に着手しました。

◆旧荻野家住宅については、2014年度に着手した保存修理工事を2016年2月に完了させました。多くの市民に文化財への理解を深めてもらえるよう、2014年度に引き続き工事現場を実際に見てもらい見学会を開催しました。また、工事完了を記念して、通常は入ることができない室内を公開するなど文化財に触れる機会を提供することができました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	0	59,295	52,767	△ 6,528	地方税	0	0	0	0
物件費	0	28,540	29,309	769	国庫支出金	0	4,214	5,745	1,531
うち委託料	0	27,912	29,087	1,175	都支出金	0	20,044	41,313	21,269
維持補修費	0	26,431	16,098	△ 10,333	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	313	376	63
補助費等	0	7,250	2,429	△ 4,821	その他	0	0	0	0
減価償却費	0	4,405	4,405	0	行政収入 小計(a)	0	24,571	47,434	22,863
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	0	△ 122,801	△ 62,758	60,043
賞与・退職手当引当金繰入額	0	21,451	5,184	△ 16,267	金融収支差額 (d)	0	△ 245	△ 242	3
行政費用 小計 (b)	0	147,372	110,192	△ 37,180	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	0	△ 123,046	△ 63,000	60,046
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	30,900	30,900
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	30,900	30,900	当期収支差額 (e)+(h)	0	△ 123,046	△ 32,100	90,946

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡整備実施設計業務委託料 7,938千円 西谷戸横穴墓群整備工事実施設計業務委託料 5,832千円 村野常右衛門生家耐震診断・補強計画作成委託料 3,600千円 埋蔵文化財調査委託料(単価契約9件) 3,056千円 など	決算額の主な内訳	西谷戸横穴墓群整備工事費 15,543千円 西谷戸横穴墓群崩落防止支保工工事費 508千円 旧永井家住宅天井感知器修繕料 30千円 旧永井家住宅ポンプ室内ポールタップ修繕料 17千円
主な増減理由	西谷戸横穴墓群整備事業が実施設計作成等に移行したため委託料が3,775千円増加。 市有文化財の管理について緊急案件(シロアリ発生等)が発生しなかったため、委託料が2,407千円減少。	主な増減理由	旧荻野家住宅保存修理工事費を事業用資産(薬師池四季彩の杜事業で計上)に計上する必要があったため、工事費が26,364千円減少。西谷戸横穴墓群整備事業が工事に着手したことにより、工事費が16,051千円増加。
勘定科目	都支出金	勘定科目	特別収入
決算額の主な内訳	旧荻野家住宅保存修理事業費補助金 26,119千円 西谷戸横穴墓群整備事業費補助金 12,302千円 高ヶ坂石器時代遺跡総合活用整備事業費補助金 1,822千円 埋蔵文化財調査事業費補助金 1,050千円 など	決算額の主な内訳	過年度損益修正益 30,900千円 (旧荻野家住宅保存修理工事実施設計業務委託料 4,536千円) (旧荻野家住宅保存修理工事費 26,364千円)
主な増減理由	旧荻野家住宅保存修理事業費補助金が2014年度より増えたため、補助金が10,669千円増加。 西谷戸横穴墓群整備が実施設計作成等に移行したため、補助金が9,835千円増加。	主な増減理由	2014年度に実施した旧荻野家住宅保存修理工事の実設計業務委託料と工事費について、過年度分として新たに事業用資産(薬師池四季彩の杜事業で計上)に計上する必要があったため、30,900千円増加。

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
		2015				
		2014				
		2013				
		2015				
		2014				
		2013				
		2015				
		2014				
		2013				

④貸借対照表

(単位:千円)

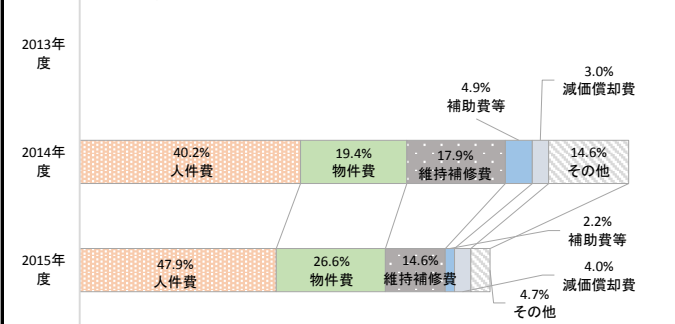
勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	3,656	3,608	△ 48
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	1,089	1,102	13
固定資産	有形固定資産	602,288	597,882	△ 4,406	賞与引当金	2,567	2,506	△ 61
	土地	580,788	580,788	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	109,534	109,534	0	固定負債	69,267	65,633	△ 3,634
	建物減価償却累計額	△ 88,034	△ 92,440	△ 4,406	地方債	19,311	18,210	△ 1,101
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	49,956	47,423	△ 2,533
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	負債の部合計	72,923	69,241	△ 3,682
	その他の固定資産	0	0	0	純資産	529,365	528,641	△ 724
資産の部合計	602,288	597,882	△ 4,406	負債及び純資産の部合計	602,288	597,882	△ 4,406	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	田端遺跡 220,285千円 高ヶ坂石器時代遺跡 192,014千円 武相荘(旧白洲邸)の一部 70,287千円 小山田1号遺跡 57,385千円 西谷戸横穴墓群 40,817千円	決算額の主な内訳	村野常右衛門生家 91,113千円 旧永井家住宅 14,461千円 武相荘(旧白洲邸)倉庫 3,960千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の原価償却により事業用資産が4,406千円減少。	主な増減理由	

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

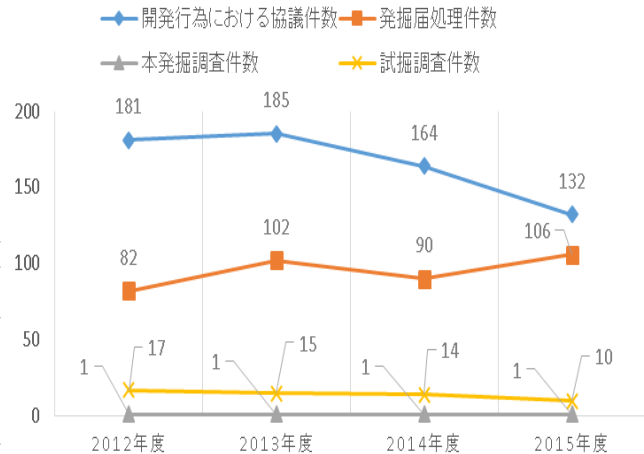


▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2015 合計		2014 合計	
						2015	2014	2015	2014
文化財保護審議会事務局事務	0.3					0.3	0.3		
文化財保護事務	0.9					0.9	1.5		
文化財整備保存事業	1.6					1.6	1.5		
埋蔵文化財保護事業	1.3					1.3	1.7		
文化財普及事業	1.3					1.3	1.3		
2015年度 特定事業 合計	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	6.3		
2014年度 特定事業 合計	5.5	0.0	0.8	0.0	0.0	6.3			

VI.個別分析

埋蔵文化財保護に関わる各種件数



VII.総括

①成果および財務の分析

◆主な事業である高ヶ坂石器時代遺跡整備事業、旧荻野家住宅保存修理事業、西谷戸横穴墓群整備事業については予定どおり進捗しました。国指定史跡である高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、国及び都から補助(対象経費の75%)を受けています。都指定有形文化財である旧荻野家住宅保存修理事業と都指定史跡である西谷戸横穴墓群整備事業は、都から補助(対象経費の50%)を受けています。

◆埋蔵文化財保護事業では、開発行為における協議件数が132件、発掘届処理件数が106件であり、このうち本発掘調査1件、試掘調査10件の指導を行いました。2014年度より試掘調査が4件減ったため、埋蔵文化財保護事業に関わる人員も減少しました。

◆文化財普及事業では、歴史講座、イベントなど19回(主催3回、共催11回、職員派遣5回)に関わり、文化財係職員が講義、解説を行いました。そのなかでも、整備中であつた遺跡整備、古民家保存修理などの整備工事過程を積極的に公開しました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇国や都からの補助を受けて実施している事業は、補助の継続が不可欠であり、引き続き補助金の確保に努めるとともに、補助率が低下した場合には、事業への影響を最小限に抑えるために事業の見直しが必要となります。

◆文化財保護事業は、文化財の整備事業へ投資することに対して市民から理解を得ることが課題です。そのため、整備完了後の遺跡などを多くの市民に見ていただけるような公開、活用を図っていく必要があります。

2015年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
----	-------	------	---------

歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	考古資料室事業	事業類型	2:施設運営型
------	---------	-------	---------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	町田市固有の考古資料の収集、整理、調査、保管に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようになります。
------	---

基本情報	根拠法令等 町田市考古資料室の公開に関する要綱				
	考古資料室は、収蔵庫として整備しましたが、市民要望に応え1993年度から収蔵資料の一部を公開しています。しかし、交通アクセスが不便で展示スペースが不十分な為、イベントスタジオ等を会場に収蔵資料を活用したアウトリーチ展示を開催して、市民に公開しています。	施設の名称	町田市考古資料室		
		建設年月日	1991年3月16日		
		資産老朽化比率	2013年度	2014年度	2015年度
			46.5%	48.5%	50.6%

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆行政費用の約30%を占める物件費は施設の維持・管理費用であり、ほぼ固定費です。よって管理コスト単価を減少させるため、収蔵資料の積極的な公開・活用を図る必要があります。
- ◆考古資料室は職員が常駐していないため、職員の解説がなくても見学者が理解しやすい展示環境を構築する必要があります。
- ◆アウトリーチ展示は高い集客効果が見込めますが、展示準備や収蔵資料の移送に係る人件費の増加、収蔵資料の破損・劣化のリスクを伴うため、適切な業務遂行体制を構築する必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
考古資料室の見学者数	人	目標	-	-	-	-	考古資料室年間見学者数
		実績	250	262	313		
アウトリーチ展示開催回数(見学者数合計)	回(人)	目標	-	-	-	-	考古資料室収蔵資料を活用し、考古資料室以外で実施した展示会の開催件数及び見学者数
		実績	2(4,116)	3(5,312)	4(4,351)		

- ◆考古資料室見学者数は、団体見学者数の増加により20%(51人)増加しました。  
 ◆アウトリーチ展示は、2014年度より1回増やし4回実施しましたが、見学者数は18%(961人)減少しました。  
 アウトリーチ展示内訳: 町田市指定有形文化財新指定記念展(自由民権資料館)、自由研究おうえんプロジェクト「町田に住んでいた縄文人の道具」(イベントスタジオ)、町田市指定文化財(考古資料)特別公開(イベントスタジオ)、【新規】忠生遺跡・縄文時代展(忠生図書館)

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	1,942	2,614	3,167	553	地方税	0	0	0	0
物件費	2,267	2,266	2,180	△ 86	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,531	1,613	1,538	△ 75	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	0	0	26	26	分担金及負担金	0	0	0	0
補助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	0	0	その他	0	0	0	0
減価償却費	2,695	2,695	2,695	0	行政収入 小計(a)	0	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 9,014	△ 7,721	△ 9,810	△ 2,089
賞与・退職手当引当金繰入額	2,110	146	1,742	1,596	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	9,014	7,721	9,810	2,089	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 9,014	△ 7,721	△ 9,810	△ 2,089
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 9,014	△ 7,721	△ 9,810	△ 2,089

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	人件費(展示会準備、施設見学対応、講師派遣、蔵書整理) 3,167千円	決算額の主な内訳	施設管理委託料 542千円 光熱水費 552千円 除草及び低木剪定委託料 495千円 機械警備委託料 230千円 など
主な増減理由	アウトリーチ展示業務の執行体制を変更したことにより人件費が553千円増加。	主な増減理由	施設管理委託料が仕様見直しにより193千円減少。 廃棄物処理業務委託料が資料室内の整理により必要になったため59千円増加。空調機器の定期点検が必要になったため、点検業務委託料が45千円増加。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	網戸修繕料 26千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	網戸の修繕が発生したため、修繕料が26千円増加。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
見学者1人あたりのコスト	人	2015	4,664	2,103	718	アウトリーチ展示の見学者数が減少したため、コストが上昇しました。
		2014	5,574	1,385	△ 350	
		2013	4,366	1,735		
		2015				
		2014				
		2013				
		2015				
		2014				
		2013				

④貸借対照表

(単位:千円)

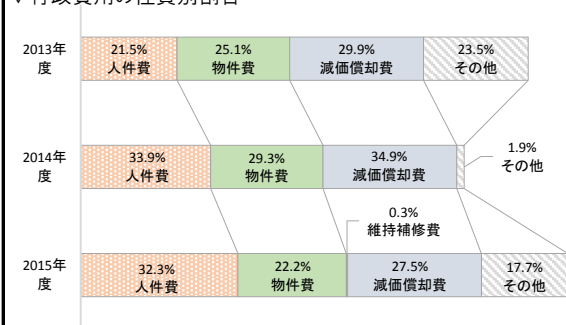
勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	84	154	70
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	122,184	119,489	△ 2,695	賞与引当金	84	154	70
	土地	54,688	54,688	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	131,142	131,142	0	固定負債	1,641	2,910	1,269
	建物減価償却累計額	△ 63,646	△ 66,341	△ 2,695	地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	1,641	2,910	1,269
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	土地	0	0	0	負債の部合計	1,725	3,064	1,339
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	120,459	116,425	△ 4,034
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0	純資産の部合計	120,459	116,425	△ 4,034	
その他の固定資産	0	0	0	負債及び純資産の部合計	122,184	119,489	△ 2,695	
資産の部合計	122,184	119,489	△ 2,695					

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	考古資料室 54,688千円	決算額の主な内訳	考古資料室 131,142千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の原価償却により事業用資産が2,695千円減少。	主な増減理由	

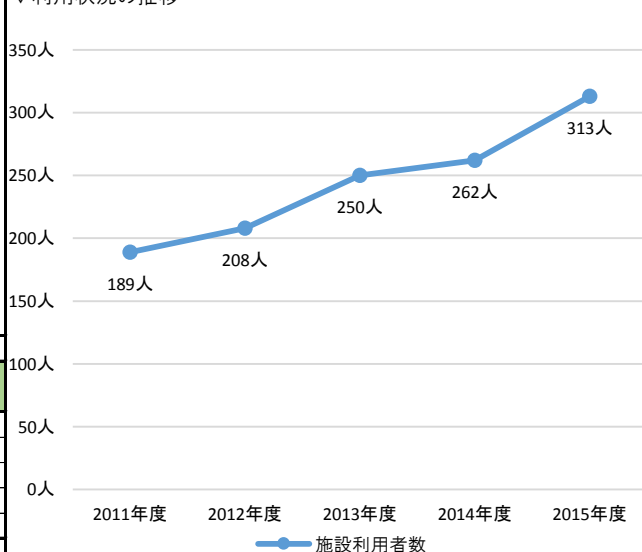
V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI.個別分析

▽利用状況の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2015年度		2014年度	
						合計	合計	合計	合計
考古資料室管理事務	0.3					0.3	0.4	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
2015年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.4		
2014年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.4			

VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆アウトリーチ展示を2013年度より毎年、1回ずつ増加して考古資料室の広報に努めた結果、団体見学者数が増加し、考古資料室の見学者数が20%増加しました。
- ◆アウトリーチ展示は、業務の執行体制を変更したことにより人件費が増加しました。
- ◆施設の維持管理経費(物件費)は施設管理委託料の仕様見直しにより減少しましたが、人件費の増加とアウトリーチ展示の見学者数の減少により、見学者1人あたりのコストは増加しました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆考古資料室は、交通アクセスが良くない場所に立地しています。考古資料室の見学者数を増加させるために、今後もより積極的に広報活動に努める必要があります。
- ◆アウトリーチ展示は、多くの市民に見ていただくために魅力的な展示を目指して内容を工夫する必要があります。さらに、展示会の準備や見学対応の人件費がかかるため、効率的な業務の遂行が必要となります。

2015年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	自由民権資料館費	
					事業類型	e:事業型(施設運営)

I. 組織概要

**組織の使命** 自由民権運動及び町田の歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示して、市民の利用に供し、自由民権運動と町田の歴史についての市民の理解を深めます。

- 所管事務**
- ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集及び保管に関すること。
  - ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の展示に関すること。
  - ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の閲覧に関すること。
  - ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の調査及び研究に関すること。
  - ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する図書等の刊行に関すること。
  - ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する講座及びイベントの開催に関すること。

基本情報	根拠法令等	自由民権資料館設置条例				
		2013年度	2014年度	2015年度	施設の名称	自由民権資料館
	開館日数	295	301	301	建設年月日	1986年3月31日
	特別展・企画展開催回数	4	4	4		
	講座開講数	2	3	5	資産老朽化比率	2013年度 39.0% 2014年度 40.9% 2015年度 42.9%

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆自由民権資料館の来館者数は、近年、着実に増加していますが、投資する行政コストに見合う十分な成果が得られるよう、引き続き、自由民権資料館の魅力の向上に努め、来館者数の増加を図ることが必要です。
- ◆2014年度は、維持補修費が減少しましたが、自由民権資料館は、建設から約30年が経過しており施設等の老朽化が進んでいます。施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、修繕計画に基づき、施設等の改修を行うことが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
自由民権資料館 来館者数	人	目標	(5,800)	(6,000)	(7,300)	8,000 (2018年度)	年間来館者数
		実績	5,868	7,024	7,146		
		目標					
		実績					

**成果の説明**

- ◆地域の新発見史料・水に関する展示、「夫婦の絆」をテーマに自由民権運動を紹介した展示など市民が興味を持ちやすいテーマで特別展・企画展を開催したことや、他課との共催で古民家講座を開催したことなどにより、来館者数が増加し、自由民権運動や町田の歴史についての市民の理解を深めることができました。
- ◆薬師池公園にある文化財や歴史背景を紹介する歴史散策ツアーなど自由民権資料館施設外でのイベントも開催したことにより、気軽に町田市の歴史に触れることができる機会を提供しました。

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	39,720	38,647	35,053	△ 3,594	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	2,232	2,676	2,330	△ 346	保険料	0	0	0	0
<b>物件費</b>	<b>11,799</b>	<b>12,184</b>	<b>9,951</b>	<b>△ 2,233</b>	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	6,024	5,907	4,770	△ 1,137	都支支出金	0	0	0	0
<b>維持補修費</b>	<b>5,025</b>	<b>1,105</b>	<b>1,568</b>	<b>463</b>	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	971	870	1,003	133	<b>その他</b>	<b>1,218</b>	<b>649</b>	<b>520</b>	<b>△ 129</b>
減価償却費	7,391	7,391	7,391	0	行政収入 小計(a)	1,218	649	520	△ 129
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 71,481	△ 60,363	△ 57,543	2,820
賞与・退職手当引当金繰入額	7,793	815	3,097	2,282	金融収支差額 (d)	△ 1,366	△ 795	△ 266	529
行政費用 小計 (b)	72,699	61,012	58,063	△ 2,949	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 72,847	△ 61,158	△ 57,809	3,349
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	1,686	0	△ 1,686
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	1,686	0	△ 1,686	当期収支差額 (e)+(h)	△ 72,847	△ 59,472	△ 57,809	1,663

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	自由民権資料館電気料金(年間) 2,379千円 民権の森史跡管理業務委託料 2,016千円 自由民権資料館総合管理業務委託料 1,871千円 史料整理用中性紙封筒作成(印刷製本費) 541千円など	決算額の主な内訳	鶴川駅バスロータリー内掲示板設置工事費 398千円 自由民権資料館土留修繕 426千円 自由民権資料館アクリル掲示板修繕 219千円 自由民権資料館監視カメラ用液晶モニタ修繕 167千円など 鶴川駅バスロータリー内掲示板設置工事により398千円増加
主な増減理由	自由民権資料館電気料金(年間)692千円の減少による。 自由民権資料館不活性ガス消火設備交換委託完了により907千円減少。	主な増減理由	

勘定科目	その他(行政収入)	勘定科目	
決算額の主な内訳	図書等販売収入 223千円 講習会等参加費 207千円 非常勤職員等雇用保険被保険者負担金 47千円 複写機等使用料 42千円など	決算額の主な内訳	
主な増減理由	図書等販売収入78千円の減少による。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
来館者1人あたりのコスト	千円	2015	7,146	8,125	△ 561	人件費や物件費が減少した一方、来館者数は増加したため、来館者1人あたりのコストは減少しました。
		2014	7,024	8,686	△ 3,703	
		2013	5,868	12,389		
		2015				
		2014				
		2013				



④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	11,203	862	△ 10,341
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	10,388	0
固定資産	有形固定資産	555,678	548,287	△ 7,391		賞与引当金	815	862
	土地	334,577	334,577	0		その他の流動負債	0	0
	建物(取得価額)	369,527	369,527	0	固定負債	15,860	16,304	444
	建物減価償却累計額	△ 148,426	△ 155,817	△ 7,391		地方債	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	15,860	16,304
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0
	土地	0	0	0		負債の部合計	27,063	17,166
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	528,615	531,121	2,506
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0					
その他の固定資産	0	0	0					
資産の部合計	555,678	548,287	△ 7,391	負債及び純資産の部合計	555,678	548,287	△ 7,391	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	自由民権資料館 334,577千円	決算額の主な内訳	自由民権資料館 369,527千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が7,391千円減少。	主な増減理由	

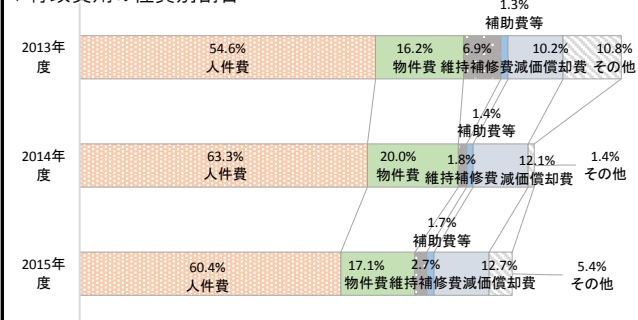
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	520	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	50,448	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	10,388
行政サービス活動収支差額(a)	△ 49,928	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 10,388
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 60,316
				一般財源充当調整額	60,316

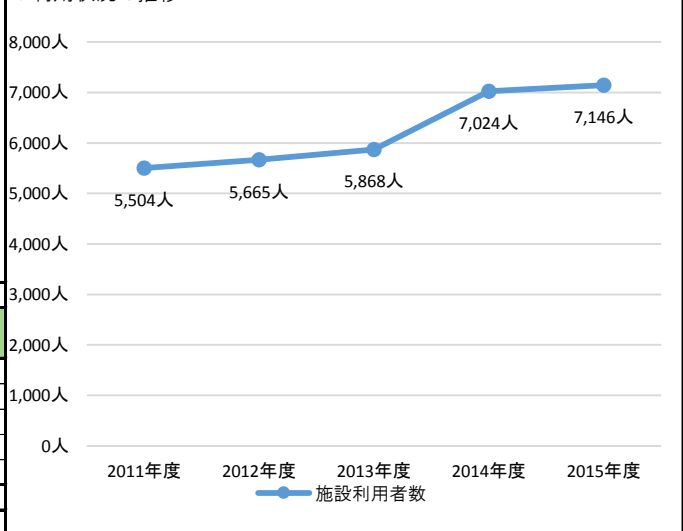
V. 財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI. 個別分析

▽利用状況の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用		嘱託	臨時	2015	
		(フルタイム)	(短時間)			合計	合計
資料館管理事務	0.8		0.9	0.1	0.3	2.1	3.3
資料保管事務	0.2			0.5	0.2	0.9	0.9
展示事務	0.3			1.3		1.6	1.7
図書刊行	0.2			0.3		0.5	0.6
普及事務	0.5		0.1	0.8		1.4	1.3
2015年度 歳出目 合計	2.0	0.0	1.0	3.0	0.5	6.5	7.8
2014年度 歳出目 合計	2.0	0.0	2.0	3.2	0.6	7.8	

VII. 総括

①成果および財務の分析

- ◆写真史料、地域の新発見史料、水に関するテーマなど幅広い年齢層を対象とした興味を持ちやすい展示事業等の実施等により、自由民権資料館の来館者数は2014年度と比較して約120人増加しました。
- ◆行政費用全体に占める物件費の構成割合は、光熱水費の縮減などにより2014年度と比較して2.9ポイント減少しました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆自由民権資料館の来館者数は、近年、着実に増加していますが、投資する行政コストに見合う十分な成果が得られるよう、引き続き、自由民権資料館の魅力の向上に努め、薬師池地域の周辺施設との連携事業などに取り組み、より一層の来館者数の増加を図ることが必要です。
- ◆2016年度は開館30周年に合わせた記念事業を実施し、市内外へ自由民権資料館をアピールするため効果的に情報発信をする必要があります。
- ◆自由民権資料館は、建設から約30年が経過しており施設等の老朽化が進んでいます。施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、財務部営繕課の中期修繕計画による施設修繕を踏まえ、施設等の維持管理を行うことが必要です。

2015年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習センター	歳出目名	生涯学習センター費
				事業類型	a.施設所管型

I 組織概要

**組織の使命** 町田市の生涯学習の拠点として、学習の場や機会、情報の提供を通して、市民一人ひとりが、学習活動の中で自己研鑽し、豊かな人生を送ることができるよう支援します。

- 所管する事務**
- ◆生涯学習に係る全体計画の立案及び推進に関すること
  - ◆市民大学事業その他の生涯学習に係る講座、講演会等の実施に関すること
  - ◆生涯学習に係る関係機関との総合調整に関すること
  - ◆生涯学習に係る情報の集約及び市民への提供に関すること
  - ◆生涯学習に係る相談に関すること
  - ◆地域の教育力の向上の推進に関すること
  - ◆施設及び設備を住民の集会その他の公共利用に供すること

II.2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆町田センタービルは建設から13年が経過しており、施設を長期にわたって維持し、資産としての価値を保全するため、町田センタービルの長期修繕計画に基づき、施設改修を着実に実施する必要があります。  
 ◇生涯学習センターの専有部分については、施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、長期的な視点で市独自に計画を立て、適切に修繕を行う必要があります。  
 ◆人件費等の行政費用を増額せずに、講座等の事業実施件数を維持し幅広い世代に学習の機会を提供していくためには、関係機関との連携や市民ボランティア等を活用した事業展開を図る必要があります。

III.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習センターの利用者数	人	目標	-	-	-	185,400	各年度3月時点での生涯学習センター施設の利用者数
		実績	176,129	182,631	177,612	(2018年度)	
講座、講演会、学級などの事業件数	件	目標	(80)	(80)	(80)	80	各年度の事業実施件数
		実績	78	83	83	(2018年度)	
生涯学習センターのホームページアクセス数	件	目標	-	-	-	50,000	各年度末時点の町田市ホームページ内「町田市生涯学習センターのご案内」ページのアクセス数
		実績	21,473	27,141	59,899	(2018年度)	

**成果の説明**

- ◆「町田市生涯学習推進計画」に基づき、学習情報の収集・発信、学習相談、講座・講演会等の実施、施設の貸し出しを概ね計画的に実施しました。
- ◆情報発信を強化し、「町田市生涯学習センターのご案内」ページのアクセス数を2.2倍に増やし、2018年度目標の50,000アクセスを達成しました。
- ◆幅広い世代に学習機会を提供していくため、家庭教育事業については、忠生地区で子どもセンターや図書館と連携して新規に2事業、若者向け事業については、若者自らが企画・運営する事業を大学、民間企業などと協働して3事業、地域協働事業として、鶴川地区協議会とモデル事業を実施しました。
- ◆庁内の関係部署の連絡会を立ち上げ、イベント、講座等の情報発信・広報に関する研修会を、4回開催し、市全体で市民の生涯学習を支援する意識の向上を図りました。
- ◆建物全体の長期修繕計画に基づき、町田センタービルの外壁改修工事を実施しました。区分所有する専有部分については長期修繕計画の策定に向けて関係部署と計画内容を協議しました。

IV.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	146,923	156,613	164,427	7,814	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	6,888	6,931	8,746	1,815	保険料	0	0	0	0
<b>物件費</b>	<b>39,915</b>	<b>43,738</b>	<b>40,785</b>	<b>△ 2,953</b>	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	16,260	17,150	16,588	△ 562	都支支出金	5,532	5,778	5,375	△ 403
<b>維持補修費</b>	<b>11,979</b>	<b>21,953</b>	<b>25,515</b>	<b>3,562</b>	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	<b>使用料及手数料</b>	<b>11,687</b>	<b>11,896</b>	<b>12,017</b>	<b>121</b>
<b>補助費等</b>	<b>64,374</b>	<b>66,640</b>	<b>65,190</b>	<b>△ 1,450</b>	その他	4,206	4,317	3,986	△ 331
減価償却費	16,688	16,688	16,688	0	行政収入 小計(a)	21,425	21,991	21,378	△ 613
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 296,735	△ 306,346	△ 319,306	△ 12,960
賞与・退職手当引当金繰入額	38,281	22,705	28,079	5,374	金融収支差額 (d)	△ 12,614	△ 11,345	△ 10,072	1,273
行政費用 小計 (b)	318,160	328,337	340,684	12,347	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 309,349	△ 317,691	△ 329,378	△ 11,687
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 309,349	△ 317,691	△ 329,378	△ 11,687

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	生涯学習センター光熱水費 17,367千円 生涯学習センター施設貸出・管理業務委託 11,378千円 町田市立学校開放教室管理業務委託 1,823千円 陶芸スタジオ光熱水費 803千円など	決算額の主な内訳	町田センタービル外壁修繕工事負担金 20,733千円 誘導灯、非常用バッテリー交換工事負担金 1,224千円 生涯学習センター舞台照明ボーターケーブル交換修繕 1,350千円 生涯学習センター6階視聴覚室プロジェクター修繕 588千円など
主な増減理由	2014年度より猛暑ではなかったため、生涯学習センター光熱水費が500千円減少。陶芸スタジオ光熱水費が102千円減少。契約内容の見直しにより生涯学習センター施設貸出・管理業務委託料が45千円減少。	主な増減理由	区分所有する町田センタービルの経年劣化による外壁修繕工事等により修繕負担金が10,099千円増加。生涯学習センターの修繕費が2,080千円減少。

勘定科目	補助費等	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	町田センタービル管理費負担金 44,867千円 障がい者青年学級担当者謝礼 6,376千円 さがまちコンソーシアム運営支援負担金 3,500千円 市民大学講座講師謝礼 3,543千円など	決算額の主な内訳	公民館施設使用料 11,524千円 附属設備使用料 493千円など
主な増減理由	警備・清掃委託費の増加により、町田センタービル管理費負担金が976千円増加。ボランティアの減少により、障がい者青年学級担当者謝礼が165千円減少。さがまちコンソーシアム運営負担金が1,000千円減少。	主な増減理由	一般貸出件数(有料)が増えたため、施設使用料が121千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	156,522	157,499	977	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	150,980	151,321	341
固定資産	有形固定資産	2,278,121	2,261,859	△ 16,262		賞与引当金	5,542	6,178	636
	土地	1,706,823	1,706,823	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	778,441	778,441	0	固定負債	1,174,471	1,032,203	△ 142,268	
	建物減価償却累計額	△ 207,143	△ 223,405	△ 16,262		地方債	1,066,608	915,286	△ 151,322
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	107,863	116,917	9,054
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0		負債の部合計	1,330,993	1,189,702	△ 141,291
	その他の固定資産	5,492	5,065	△ 427	純資産	952,620	1,077,222	124,602	
資産の部合計	2,283,613	2,266,924	△ 16,689	負債及び純資産の部合計	2,283,613	2,266,924	△ 16,689		

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	生涯学習センター 1,706,823千円(区分所有 持分100万分の254,148)	決算額の主な内訳	生涯学習センター 746,445千円(専有部分の建物床面積合計 2,630.86㎡) 生涯学習センター陶芸スタジオ 31,996千円	決算額の主な内訳	重要物品(グランドピアノ等) 2,080千円 出資金((株)町田センタービル株券) 2,985千円
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が16,262千円減少。	主な増減理由	所管する重要物品の減価償却により資産価値が427千円減少。

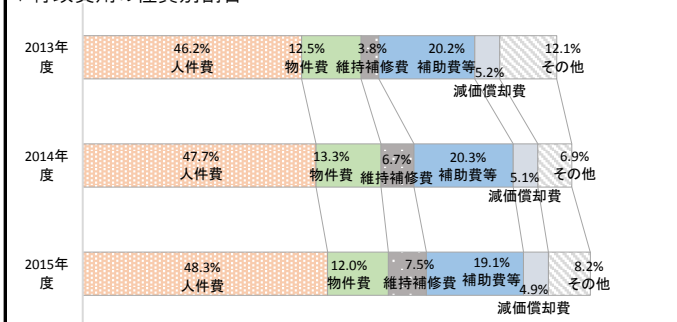
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	21,378	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	324,379	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	150,980
行政サービス活動収支差額(a)	△ 303,001	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 150,980
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 453,981
				一般財源充当調整額	453,981

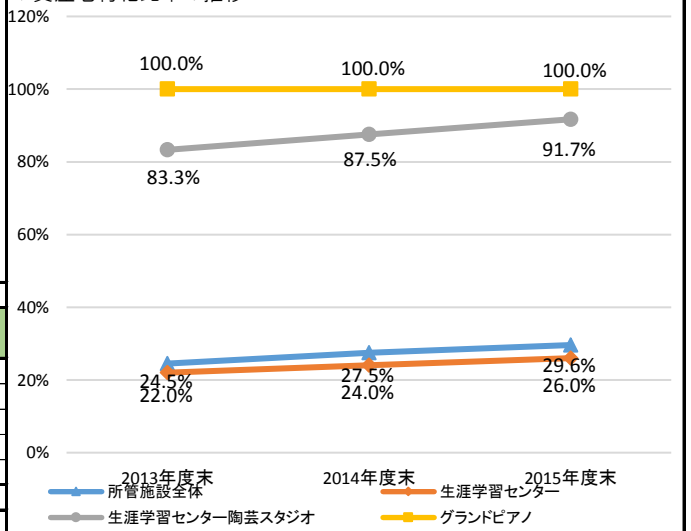
V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI.個別分析

▽資産老朽化比率の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用		嘱託	臨時	2015	
		(フルタイム)	(短時間)			合計	合計
生涯学習センター管理事務	5.3		1.0	0.5	0.1	6.9	8.5
生涯学習支援事業	4.0			0.6		4.6	4.7
生涯学習講座事業	6.9			7.9	0.1	14.9	13.5
さがまちコンソーシアム事務	0.6					0.6	0.5
2015年度 歳出目 合計	16.8	0.0	1.0	9.0	0.2	27.0	27.2
2014年度 歳出目 合計	16.0	0.0	2.0	9.2	0.0	27.2	

VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆町田センタービルの長期修繕計画に基づき外壁修繕工事を完了しました。
- ◆産休及び中途退職の職員がいたため、時間外勤務手当が増加しました。2014年度と比較して人件費の割合が高くなっています。
- ◆幅広い世代に学習機会を提供していくため、若年層向けの事業については、若者たち自らが企画・運営する事業を2014年度の2事業から3事業に増やしました。また、地域への学習機会の提供として、新たに地域の公共施設や地区協議会と連携して3事業を実施しました。
- ◆ホームページアクセス数は各事業の実施結果をトピックとして情報提供したため、アクセス数が増加し2018年度の目標を前倒しで達成することができました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆町田センタービルの長期修繕計画に基づき、ビル全体の修繕は計画的に実施できているものの、専有部分の長期修繕計画が未策定であるため、早急に計画を策定する必要があります。
- ◆魅力的な講座・講演会の実施を継続して提供するため、現在行っている事業を検証し、その結果を次年度以降の事業へと反映させていく必要があります。さらに、生涯学習センター内だけでなく各地域への学習支援を充実させるため、引き続き、地域の団体や大学等と連携を図る必要があります。
- ◆効率的、効果的に学習の機会を提供していくためには、さがまちコンソーシアムなどの関係機関との連携や市民ボランティア等を活用しながら事業展開を図る必要があります。

2015年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
				事業類型	a.施設所管型

I. 組織概要

**組織の使命** 市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

- 所管する事務**
- ◆図書館運営の企画、調査、研究及び統計に関すること
  - ◆図書館資料の収集、整理、閲覧及び貸出しに関すること
  - ◆読書普及を目的とした各種行事に関すること
  - ◆地域文庫等関係団体の育成援助に関する事及び図書館活動に係わるボランティアの育成に関する事
  - ◆市外図書館との図書資料の相互貸借に関する事
  - ◆移動図書館の運営に関する事及び図書館の維持管理に関する事
  - ◆町田市立図書館協議会に関する事

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆各館の職員数及び業務スタイルを変更したことにより、読書相談にきめ細かく応じ資料要求に答えるなど、今まで以上に利用者へ寄り添った業務スタイルを定着させることが必要です。  
 ◆忠生図書館が開館することで、図書館利用者が増加することが見込まれますが、貸出冊数・蔵書回転率・蔵書更新率を上げるためには、あらゆる分野で魅力的な図書を選定するとともに、より一層の図書の購入が必要です。  
 ◇さるびあ図書館(2013年度)及び木曽山崎図書館(2014年度)の耐震補強工事により両館の老朽化比率は低下しましたが、他館の老朽化は進んでいます。施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、修繕計画に基づき、施設等の改修を行うことが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	-	4,470,000	(AV資料を含む)
		実績	4,235,796	3,834,668	4,307,626	(2016年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	-	3.71	貸出点数を蔵書数で除したものの(AV資料を含む) (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	3.75	3.41	3.60	(2016年度)	

**成果の説明**

- ◆2015年5月忠生市民センター内に市内8館目となる忠生図書館を開館しました。これにより、忠生地域の利用者の利便性が向上しました。
- ◆2015年3月にICタグ導入・システム更改を行って業務の効率化を図ったことにより、職員の減員を行いました。その分の人員を異動させることで、新設した忠生図書館の運営要員を確保しました。
- ◆全国初のカラーバーコードを使用した蔵書点検を行い、これまでより点検日数を短縮し、開館日数を増やすことができました。
- ◆地域による図書館サービスの偏在を無くすため、2016年1月から子どもセンターばお分館で予約資料受渡しサービスを開始し、小山地域の利用者の利便性が向上しました。また、成瀬コミュニティセンターでの予約資料受渡しサービス実施に向けた準備を進めました。
- ◆第三次町田市子ども読書活動推進計画の取組として、まちだとしよかん子どもまつりによる読書活動の推進、学校図書指導員及び教諭対象の図書館研修を実施しました。また、職場体験の中学生の受け入れや小学校・中学校・高等学校などによる図書館見学も行いました。

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
<b>人件費</b>	<b>822,371</b>	<b>877,054</b>	<b>840,923</b>	<b>△ 36,131</b>	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	26,027	41,430	28,201	△ 13,229	保険料	0	0	0	0
<b>物件費</b>	<b>171,955</b>	<b>419,789</b>	<b>300,953</b>	<b>△ 118,836</b>	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	85,539	273,510	64,813	△ 208,697	都支支出金	36,504	0	0	0
維持補修費	15,027	16,115	15,885	△ 230	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	1,560	1,636	76
<b>補助費等</b>	<b>59,709</b>	<b>64,788</b>	<b>54,991</b>	<b>△ 9,797</b>	その他	10,567	15,348	6,938	△ 8,410
減価償却費	35,046	35,412	48,503	13,091	行政収入 小計(a)	47,071	16,908	8,574	△ 8,334
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 1,093,049	△ 1,485,991	△ 1,327,073	158,918
賞与・退職手当引当金繰入額	36,012	89,741	74,392	△ 15,349	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	1,140,120	1,502,899	1,335,647	△ 167,252	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 1,093,049	△ 1,485,991	△ 1,327,073	158,918
<b>特別費用 (g)</b>	<b>102,256</b>	<b>77,658</b>	<b>49,880</b>	<b>△ 27,778</b>	特別収入 小計 (f)	228	409	558	149
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 102,028	△ 77,249	△ 49,322	27,927	当期収支差額 (e)+(h)	△ 1,195,077	△ 1,563,240	△ 1,376,395	186,845

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
<b>決算額の主な内訳</b>	常勤職員 483,403千円 再任用職員 32,768千円 嘱託員 286,413千円 臨時職員 38,339千円	<b>決算額の主な内訳</b>	ICタグカラーバーコードシステム使用料 111,548千円 図書館情報システムサービス使用料 44,108千円 図書館書籍配送業務委託料 7,271千円 鶴川駅前図書館総合管理業務委託料 18,674千円など
<b>主な増減理由</b>	忠生図書館開館準備・ICタグ導入及びシステム更改完了により、常勤職員1名・再任用職員5名の減員及び時間外勤務が減少したことから、人件費が36,131千円減少。	<b>主な増減理由</b>	ICタグカラーバーコードシステム使用料102,252千円、図書館情報システムサービス使用料40,432千円などの増加。システム更改時の一時経費227,961千円減少。

勘定科目	補助費等	勘定科目	特別費用
<b>決算額の主な内訳</b>	エルムビル総合管理業務負担金 52,942千円 音訳・テイジー編集謝礼 769千円 対面朗読協力謝礼 424千円 ボランティア養成講座謝礼 210千円 町田市子ども読書活動推進会議委員謝礼 126千円など	<b>決算額の主な内訳</b>	除籍図書資産額 49,880千円
<b>主な増減理由</b>	エルムビル総合管理業務の仕様の見直しにより6,023千円減少。	<b>主な増減理由</b>	除籍資料数が減少したため、2014年度より27,778千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	22,611	23,381	770	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	
固定資産	有形固定資産	1,233,079	1,195,642	△ 37,437		賞与引当金	22,611	23,381	770
	土地	400,911	400,911	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	1,578,888	1,578,888	0	固定負債	440,046	442,441	2,395	
	建物減価償却累計額	△ 746,720	△ 784,157	△ 37,437		地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	440,046	442,441	2,395
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0		負債の部合計	462,657	465,822	3,165
	その他の固定資産	2,329,525	2,321,553	△ 7,972	純資産	3,099,947	3,051,373	△ 48,574	
資産の部合計	3,562,604	3,517,195	△ 45,409	純資産の部合計	3,099,947	3,051,373	△ 48,574		
				負債及び純資産の部合計	3,562,604	3,517,195	△ 45,409		

④貸借対照表の特徴的事項

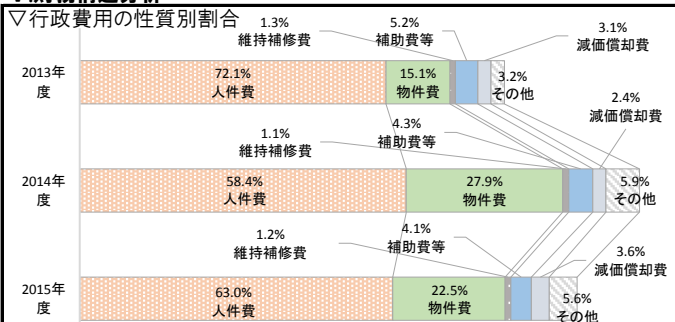
勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区部所有持分100万分の273,298) さるびあ図書館 138,398千円	決算額の主な内訳	中央図書館 1,358,295千円(専有部分建物床面積合計5,262.05㎡) さるびあ図書館 109,131千円 木曾山崎図書館 111,462千円	決算額の主な内訳	図書資産 2,235,197千円 出資金(株エルクスリー株券) 6,600千円 忠生図書館書架等備品 79,756千円
主な増減理由		主な増減理由		主な増減理由	図書購入・寄贈の増加と除籍による減少に特別収入を加え、忠生図書館書架備品の減価償却により全体で7,972千円の減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

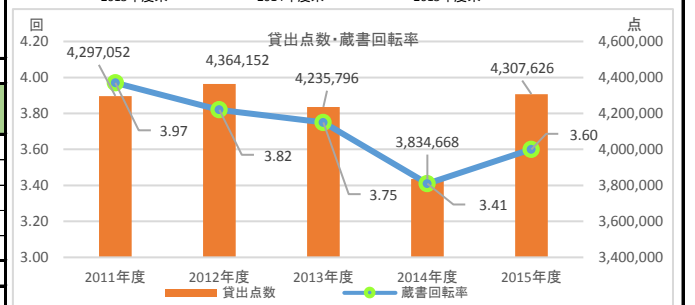
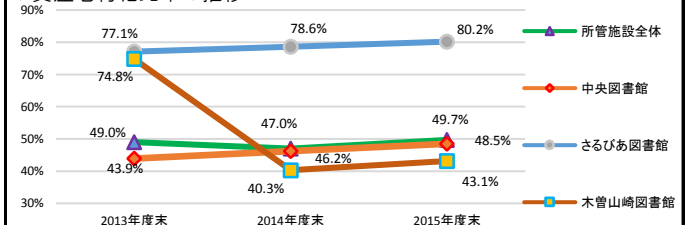
勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	7,351	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	1,283,978	社会資本整備等投資活動支出	41,430	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 1,276,627	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 41,430	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 1,318,057
				一般財源充当調整額	1,318,057

V. 財務構造分析



VI. 個別分析

▽資産老朽化比率の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	2015年度					2014年度	
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	合計	合計
図書館管理事務	6.9	0.6	2.9	0.3	10.7	10.8	
各庶務事務	10.5	0.9	0.2	0.3	11.9	5.5	
企画運営事務	6.3	2.0	0.2	8.5	20.2		
資料貸出・閲覧事業	31.9	7.4	88.3	19.4	147.0	148.2	
利用援助・普及事業	2.4	0.1	8.2	10.7	9.5		
2015年度 歳出目 合計	58.0	0.0	9.0	101.6	20.2	188.8	194.2
2014年度 歳出目 合計	59.0	1.0	13.0	101.7	19.5	194.2	

VII. 総括

①成果および財務の分析

- ◆忠生図書館の開館などにより、2015年度の貸出点数は2014年度より約473千点増加して4,307,626点となり、蔵書回転率は0.19ポイント上がりました。
- ◆忠生図書館開館準備、ICタグ導入・システム更改が完了したため、人件費が2014年度より36,131千円減少しました。
- ◆ICタグカラーバーコードシステム使用料等のランニングコストが増加した一方、システム更改時に発生したICタグ貼付委託料や図書館システムセットアップ委託料が減少したことにより、物件費は118,836千円減少しました。
- ◆所管する各図書館の施設を維持するための修繕を行いました。資産老朽化率は依然進んでいます。
- ◆セルフ貸出機・返却機を導入し、業務スタイルを変更したことから、図書館員がカウンターの外に出て、利用者の読書相談等にきめ細かく応じて資料要求に応えることが可能となりました。読書相談件数は2014年度と比較すると約30%増加しています。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆町田市内の図書館は8館、予約資料受渡し施設は3か所となりました。今後は、各地域の特色に合った図書館利用者へのサービスを充実させることが必要です。
- ◆システム更改及び忠生図書館の開館により、2015年度は貸出点数及び蔵書回転率が上昇しましたが、ここ数年では減少傾向にあります。貸出点数・蔵書回転率をさらに上げるために、あらゆる分野で魅力的な図書を選定することが必要です。
- ◇所管する施設の老朽化が進んでおり、「町田市公共施設等総合管理計画」に基づいて、利用者への長期のサービスを維持する方策を検討することが必要です。

2015年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	中央図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備します。					
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則					
	2013年度			2014年度		
	2015年度			施設の名称		
	蔵書数(AV資料含む)			584,129点		
	201,493件			189,259件		
201,766件			建設年月日			
貸出者数			449,774人			
423,405人			475,896人			
資産老朽化比率			43.9%			
46.2%			48.5%			

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆職員数・業務スタイルを変更したことにより、読書相談にきめ細かく応じ資料要求に答えるなど、今まで以上に利用者へ寄り添った業務スタイルを定着させることが必要です。
- ◆貸出冊数・蔵書更新率・蔵書回転率を上げるためには、あらゆる分野で魅力的な図書を選定するとともに、より一層の図書購入が必要です。
- ◇建設後25年が経過していることから、施設等の老朽化が進んでいます。施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、修繕計画に基づき、施設等の改修を行うことが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	-	1,300,000	(AV資料を含む)
		実績	1,395,772	1,299,987	1,274,783	(2016年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	-	2.24	貸出点数を蔵書数で除したものの(AV資料を含む)
		実績	2.39	2.22	2.20	(2016年度)	(蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)

◆2015年3月のシステム更改後、セルフ貸出機・返却機、予約資料受取コーナーについて、待ち時間が短くなったなど利用者から喜ばれています。

◆2016年3月に利用者用のインターネット閲覧パソコンを設置し、利用者自身で有料データサービス等を使って調べものができる環境を整備しました。

◆図書館入門講座やバックヤードツアーなどの利用者向け講座・映画会・子ども向けおはなし会・展示会・講演会などを行うことで、図書利用の拡大を積極的にはたらきかけました。

◆本の特集コーナーを活用して、博物館(時計展)、環境自然共生課(地球温暖化特集)等と連携して、当該事業を利用者へPRしました。

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	415,293	465,727	387,682	△ 78,045	地方税	0	0	0	0
物件費	62,719	124,494	100,301	△ 24,193	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	10,994	71,392	8,598	△ 62,794	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	11,980	12,028	4,768	△ 7,260	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	59,553	61,089	54,725	△ 6,364	その他	7,764	7,133	6,207	△ 926
減価償却費	32,007	32,007	32,007	0	行政収入 小計(a)	7,764	7,133	6,207	△ 926
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 598,604	△ 760,007	△ 585,566	174,441
賞与・退職手当引当金繰入額	24,816	71,795	12,290	△ 59,505	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	606,368	767,140	591,773	△ 175,367	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 598,604	△ 760,007	△ 585,566	174,441
特別費用 (g)	67,346	34,772	33,240	△ 1,532	特別収入 小計 (f)	0	163	4,767	4,604
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 67,346	△ 34,609	△ 28,473	6,136	当期収支差額 (e)+(h)	△ 665,950	△ 794,616	△ 614,039	180,577

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 254,110千円 再任用職員 14,598千円 嘱託員 98,261千円 臨時職員 20,713千円	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 39,165千円 図書館情報システムサービス使用料 14,070千円 図書館書籍配送業務委託料 2,319千円など
主な増減理由	システム更改により業務の効率化を図ったため、78,045千円減少。	主な増減理由	ICタグカラーバーコードシステム使用料39,165千円・図書館情報システムサービス使用料11,843千円などの増加。 システム更改時の一時経費58,868千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	補助費等
決算額の主な内訳	4階児童トイレ床下給水管修繕 924千円 読書室・4階5階展示コーナー等壁紙張替修繕 424千円 5階書架・4階5階展示コーナー等照明修繕 1,039千円など	決算額の主な内訳	エルムビル総合管理業務負担金 52,942千円 音訳・デジター編集謝礼 769千円 対面朗読協力謝礼 424千円 ボランティア養成講座謝礼 210千円など
主な増減理由	施設の維持に必要な緊急修繕のみを行い、2014年度より7,260千円減少。	主な増減理由	エルムビル総合管理業務の仕様の見直しにより6,023千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2015	578,432	1,023	△ 286	人件費及び物件費の減少により、単位あたりコストが286円減少しました。
		2014	585,950	1,309	271	
		2013	584,129	1,038		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2015	5,968	99,158	△ 29,384	人件費及び物件費の減少により、単位あたりコストが29,384円減少しました。
		2014	5,968	128,542	26,939	
		2013	5,968	101,603		
開館日数1日あたりコスト	日	2015	300	1,972,577	△ 719,142	人件費・物件費の減少及び開館日数が15日増えたことにより、単位あたりコストが719,142円減少しました。
		2014	285	2,691,719	629,243	
		2013	294	2,062,476		

④貸借対照表

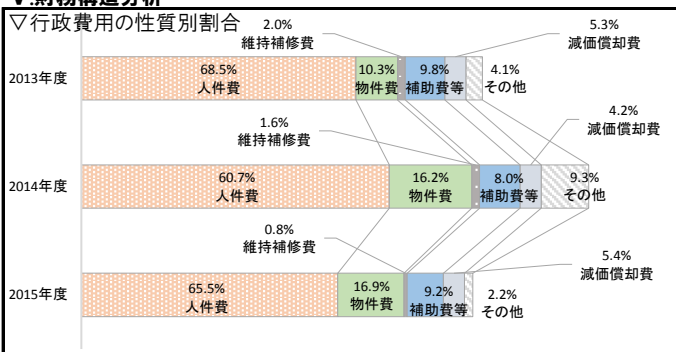
(単位:千円)

勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	13,499	12,290	△ 1,209	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	
固定資産	有形固定資産	996,566	964,559	△ 32,007		賞与引当金	13,499	12,290	△ 1,209
	土地	262,513	262,513	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	1,358,295	1,358,295	0	固定負債	262,707	232,577	△ 30,130	
	建物減価償却累計額	△ 624,242	△ 656,249	△ 32,007		地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	262,707	232,577	△ 30,130
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0		負債の部合計	276,206	244,867	△ 31,339
	その他の固定資産	1,333,069	1,320,289	△ 12,780	純資産	2,053,429	2,039,981	△ 13,448	
資産の部合計	2,329,635	2,284,848	△ 44,787	純資産の部合計	2,053,429	2,039,981	△ 13,448		
				負債及び純資産の部合計	2,329,635	2,284,848	△ 44,787		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298)	決算額の主な内訳	中央図書館 1,358,295千円(専有部分建物床面積合計5,262.05㎡)	決算額の主な内訳	図書資産 1,313,689千円 出資金(株エルムスリー株券) 6,600千円
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が32,007千円減少。	主な増減理由	期初額から購入図書18,258千円、寄贈2,010千円、除籍△33,240千円、特別収入192千円の期中移動があり、図書資産が12,780千円減少。

V.財務構造分析

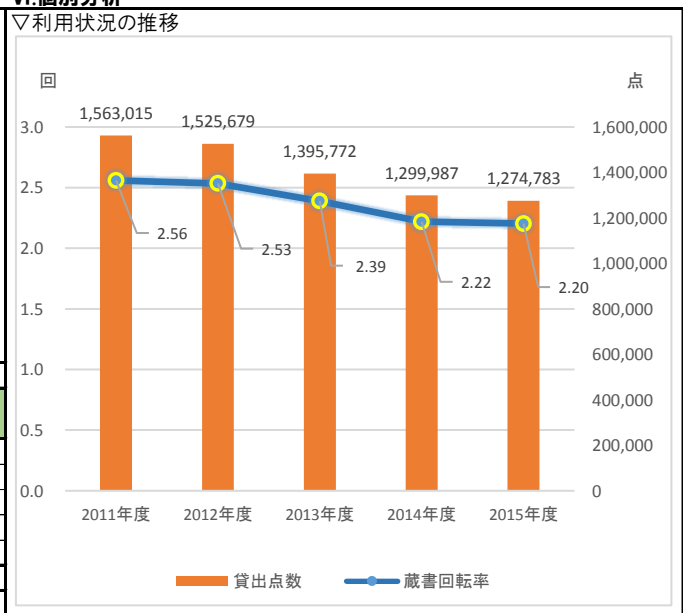


▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2015 合計	2014 合計
図書館管理事務	4.1		0.4	0.9	0.3	5.7	7.6
各館庶務事務	5.7		0.7		0.3	6.7	3.3
企画運営業務	4.9			1.0	0.1	6.0	14.6
資料貸出・閲覧業務	12.8		2.8	29.7	10.2	55.5	65.7
利用援助・普及事業	1.5		0.1	3.1		4.7	6.1
2015年度 特定事業 合計	29.0	0.0	4.0	34.7	10.9	78.6	97.3
2014年度 特定事業 合計	35.0	1.0	4.9	43.2	13.2	97.3	

VI.個別分析



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆システム更改が完了したことなどにより、物件費が2014年度より24,193千円減少しました。
- ◆ICタグカラーバーコードシステム使用料・図書館情報システムサービス使用料及び書籍配送業務委託料等の経費を各図書館に配賦しました。
- ◆セルフ貸出機・返却機・予約資料受取コーナーを設置して業務の効率化を図ったことで、中央図書館から忠生図書館へ職員異動を行い、忠生図書館を運営する人員を確保しました。中央図書館の人件費は2014年度より78,045千円減少しました。
- ◆貸出点数が減少したため、蔵書回転率は0.02ポイント下がりました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆市立図書館の中心館として、図書館を利用していない方のニーズ等も把握し、図書館の強みを活かした活動やイベントを行うなど、図書館利用の拡大に努める必要があります。
- ◆きめ細かい読書相談や資料要求に応えることができるように、専門的なサービスの充実や各地域図書館への支援を行うことが必要です。
- ◇建設後26年が経過していることから施設の老朽化が進んでいます。利用者に安心して施設を利用してもらうためには、施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、長期的な施設の維持管理計画に基づいて、施設や設備の改修を行うことが必要です。

2015年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	さるびあ図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則							
	蔵書数	2013年度	2014年度	2015年度	施設の名称	町田市立さるびあ図書館		
	貸出者数	96,196人	117,830人	113,963人	建設年月日	1972年5月22日		
	予約・リクエスト件数	67,207件	75,253件	72,502件		2013年度	2014年度	2015年度
	貸出者数	96,196人	117,830人	113,963人	資産老朽化比率	77.1%	78.6%	80.2%

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆職員数・業務スタイルを変更したことにより、読書相談にきめ細かく応じ資料要求に答えるなど、今まで以上に利用者へ寄り添った業務スタイルを定着させる必要があります。  
 ◆貸出冊数・蔵書回転率・蔵書更新率をさらに上げるためには、あらゆる分野で魅力的な図書を選定するとともに、より一層の図書購入が必要です。  
 ◇建設後40年以上が経過していることから、施設等の老朽化が進んでいます。施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、修繕計画に基づき、施設等の改修を行う必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	-	450,000点	
		実績	394,658点	479,804点	426,947点	(2016年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	-	3.33	貸出点数を蔵書数で除したもの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	2.84	3.60	3.20	(2016年度)	

成果の説明

- ◆移動図書館車2台が43か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。
- ◆市民ボランティアと協働で、乳児向け、2・3歳児向け、就学前後の児童向けなどのおはなし会を開催しました。
- ◆エコフェスタに移動図書館車で参加し、リサイクル資料の配布などにより図書館のPRを行いました。
- ◆小・中学校からの依頼を受け、テーマに沿った資料を選書し3,901冊の配本を行いました。また、運搬手段を持たない地域文庫と小学校にも資料を配本しました。
- ◆児童書を中心に、リサイクル資料を地域文庫等に提供しました。

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	98,419	107,070	102,136	△ 4,934	地方税	0	0	0	0
物件費	11,811	26,034	27,848	1,814	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	5,935	18,417	7,141	△ 11,276	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	164	1,649	8,916	7,267	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	1,560	1,636	76
補助費等	0	0	15	15	その他	521	343	110	△ 233
減価償却費	1,887	2,253	2,253	0	行政収入 小計(a)	521	1,903	1,746	△ 157
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 114,418	△ 151,755	△ 146,784	4,971
賞与・退職手当引当金繰入額	2,658	16,652	7,362	△ 9,290	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	114,939	153,658	148,530	△ 5,128	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 114,418	△ 151,755	△ 146,784	4,971
特別費用 (g)	6,858	15,675	4,636	△ 11,039	特別収入 小計 (f)	17	59	39	△ 20
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 6,841	△ 15,616	△ 4,597	11,019	当期収支差額 (e)+(h)	△ 121,259	△ 167,371	△ 151,381	15,990

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 57,778千円 再任用職員 7,268千円 嘱託員 36,240千円 臨時職員 850千円	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,436千円 図書館情報システムサービス使用料 3,749千円 図書館書籍配送業務委託料 618千円 清掃業務委託料 4,961千円など
主な増減理由	システム更改により業務の効率化を図ったため、4,934千円減少。	主な増減理由	ICタグカラーバーコードシステム使用料10,436千円・図書館情報システムサービス使用料3,297千円などの増加。 システム更改時の一時経費11,948千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	排水設備他改修工事 7,639千円 新聞閲覧コーナー窓枠取付け修繕 488千円 児童コーナー照明修繕 381千円など	決算額の主な内訳	高圧送電線線下用地使用料 1,635千円 公衆電話ボックス本柱・支線等設置使用料 1千円
主な増減理由	排水設備他改修工事を行ったことなどにより、2014年度より7,267千円増加。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2015	133,324	1,114	△ 40	システム更改完了により人件費などが減少したことで、単位あたりコストが40円減少しました。
		2014	133,106	1,154	327	
		2013	138,908	827		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2015	1,260	117,881	△ 4,070	システム更改完了により人件費などが減少したことで、単位あたりコストが4,070円減少しました。
		2014	1,260	121,951	30,730	
		2013	1,260	91,221		
開館日数1日あたりコスト	日	2015	290	512,172	△ 26,979	システム更改完了により人件費などが減少したこと、開館日数が2014年度より5日増えたことにより、単位あたりコストが26,979円減少しました。
		2014	285	539,151	26,030	
		2013	224	513,121		



④貸借対照表

(単位:千円)

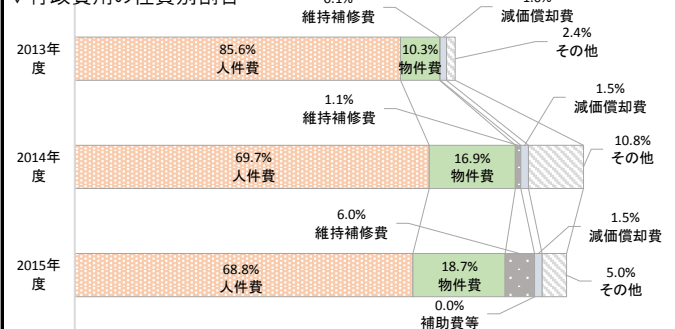
勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	2,781	2,795	14
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	168,827	166,574	△ 2,253	地方債	0	0	0
	土地	138,398	138,398	0	賞与引当金	2,781	2,795	14
	建物(取得価額)	109,131	109,131	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 78,702	△ 80,955	△ 2,253	固定負債	54,126	52,882	△ 1,244
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	54,126	52,882	△ 1,244
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	その他の固定資産	217,250	218,793	1,543	負債の部合計	56,907	55,677	△ 1,230
資産の部合計	386,077	385,367	△ 710	純資産	329,170	329,690	520	
				純資産の部合計	329,170	329,690	520	
				負債及び純資産の部合計	386,077	385,367	△ 710	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	さるびあ図書館 138,398千円	決算額の主な内訳	さるびあ図書館 109,131千円	決算額の主な内訳	図書資産 218,793千円
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が2,253千円減少。	主な増減理由	期初額から購入図書4,018千円、寄贈2,122千円、除籍△4,636千円、特別収入39千円の期中移動があり、図書資産額が1,543千円増加。

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



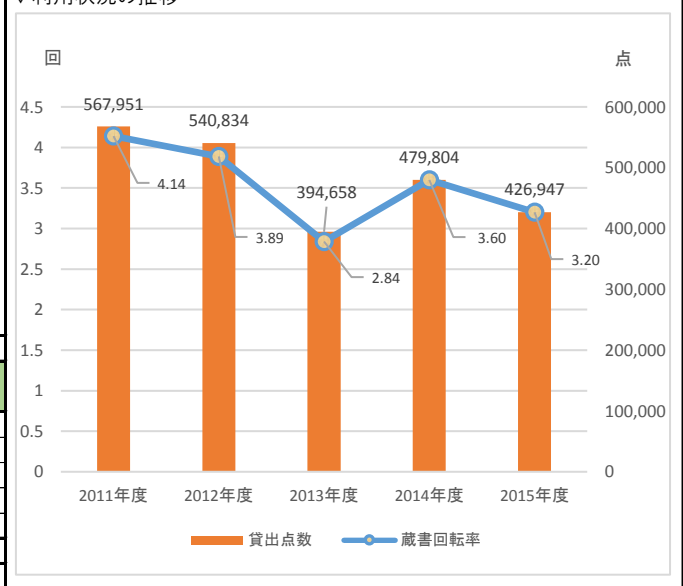
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2015 合計	2014 合計
図書館管理事務	0.7			0.4		1.1	1.6
各館庶務事務	1.2			0.1		1.3	0.4
企画運営業務	0.1			0.1		0.2	1.6
資料貸出・閲覧業務	4.9		2.0	12.5	0.5	19.9	18.1
利用援助・普及事業	0.1			0.7		0.8	0.7
2015年度 特定事業 合計	7.0	0.0	2.0	13.8	0.5	23.3	22.4
2014年度 特定事業 合計	7.0	0.0	2.0	12.7	0.7	22.4	

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆学校図書館を支援する事業として、学校への配本を行っています。小・中学校合わせて55校の登録校のうち32校から依頼を受けて、学校が希望する特定のテーマの資料3,901冊を貸出しました。2014年度より登録校は1校、貸出冊数は303冊増加しました。
- ◆全館で199団体の登録があり、団体への貸出は、年間で18,231冊行いました。
- ◆建設後43年経過した施設を維持するため、排水設備他改修工事を行い、維持補修費は2014年度より7,267千円増額になりました。
- ◆システム更改などが完了したことにより、図書館システムセットアップ委託料が減少しました。一方、ICタグカラーバーコードシステム使用料・図書館情報システムサービス使用料及び書籍配送業務委託料等の経費が配賦されたため、物件費が2014年度より1,814千円増加しました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆貸出点数・蔵書回転率が減少傾向にあります。これを上げるために、地域住民のニーズを把握した上で魅力的な図書を選定することが必要です。
- ◆移動図書館の利用者が減少しています。図書館が身近でない地域の方でも図書館サービスが利用できる移動図書館を更にPRすることが必要です。
- ◆学校支援の取りまとめ館として、各学校からの読書相談や資料要求に応えられることが必要です。また、サービス利用校の拡大も必要です。
- ◇建設後40年以上が経過していることから施設の老朽化が進んでいます。引き続き施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、修繕計画に基づき、施設や設備の改修を行うことが必要です。

2015年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備します。				
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則				
	蔵書数	2013年度	2014年度	2015年度	施設の名称
	貸出者数	50,967点	50,389点	50,360点	建設年月日
	予約・リクエスト件数	66,938件	58,283件	56,421件	1972年2月15日
	貸出者数	88,103人	77,241人	79,572人	2013年度
				2014年度	2015年度
				資産老朽化比率	—

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆職員数・業務スタイルを変更したことにより、読書相談にきめ細かく応じ資料要求に答えるなど、今まで以上に利用者へ寄り添った業務スタイルを定着させることが必要です。  
 ◆貸出冊数・蔵書更新率・蔵書回転率を上げるためには、あらゆる分野で魅力的な図書を選定するとともに、より一層の図書購入が必要です。  
 ◇開館後40年以上が経過していることから、施設等の老朽化が進んでいます。施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、修繕計画に基づき、施設等の改修を行うことが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	-	300,000	
		実績	310,134	266,726	259,097	(2016年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	-	5.88	貸出点数を蔵書数で除したもの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	6.08	5.29	5.14	(2016年度)	

◆システム更改後に書架の移動や椅子の設置などレイアウト変更を行って、利用者の館内閲覧スペースを広げました。  
 ◆まちだとしょかん子どもまつり期間中のおはなし会を、地域のお祭りにあわせて実施し多くの方に参加していただきました。  
 ◆子ども向けおはなし会・乳幼児向けおはなし会・ブックトークを実施し、子どもが図書へ関心を持つきっかけづくりに取り組みました。  
 ◆鶴川駅前図書館と共同で、中学1・2・3年生に出張ブックトークを実施しました。  
 ◆職場体験の中学2年生6名・高校1年生2名を受け入れて、図書館の仕事を知ってもらいました。

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	40,628	43,921	40,491	△ 3,430	地方税	0	0	0	0
物件費	5,152	10,384	15,836	5,452	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,427	6,149	1,922	△ 4,227	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	423	21	121	100	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	156	156	162	6	その他	242	157	51	△ 106
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	242	157	51	△ 106
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 47,421	△ 58,837	△ 60,944	△ 2,107
賞与・退職手当引当金繰入額	1,304	4,512	4,385	△ 127	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	47,663	58,994	60,995	2,001	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 47,421	△ 58,837	△ 60,944	△ 2,107
特別費用 (g)	6,355	3,987	1,601	△ 2,386	特別収入 小計 (f)	35	38	32	△ 6
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 6,320	△ 3,949	△ 1,569	2,380	当期収支差額 (e)+(h)	△ 53,741	△ 62,786	△ 62,513	273

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 24,795千円 嘱託員 14,883千円 臨時職員 813千円	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 6,998千円 図書館情報システムサービス使用料 2,514千円 図書館書籍配送業務委託料 414千円 建物借上料 1,664千円など
主な増減理由	システム更改により業務の効率化を図ったため、3,430千円減少。	主な増減理由	ICタグカラーバーコードシステム使用料6,998千円・図書館情報システムサービス使用料2,330千円などの増加。 システム更改時の一時経費4,857千円減少。
勘定科目	特別費用	勘定科目	
決算額の主な内訳	除籍図書資産額 1,601千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	除籍資料数が減少したため、2014年度より2,386千円減少。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2015	50,360	1,211	40	人件費は減少しましたが、物件費が増加したことにより、単位あたりコストが40円増加しました。
		2014	50,389	1,171	236	
		2013	50,967	935		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2015	260	234,596	7,696	人件費は減少しましたが、物件費が増加したことにより、単位あたりコストが7,696円増加しました。
		2014	260	226,900	43,581	
		2013	260	183,319		
開館日数1日あたりコスト	円	2015	300	203,317	△ 10,429	人件費の減少及び開館日数が24日増えたことにより、単位あたりコストが10,429円減少しました。
		2014	276	213,746	56,442	
		2013	303	157,304		

④貸借対照表

(単位:千円)

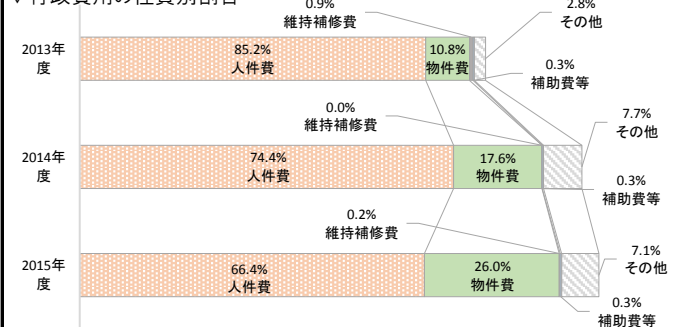
勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,131	1,199	68	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	1,131	1,199	68
		建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	22,002	22,694	692
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	22,002	22,694	692	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
		土地	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	負債の部合計	23,133	23,893	760
工作物減価償却累計額		0	0	0	純資産	38,128	37,959	△ 169	
無形固定資産	0	0	0						
建設仮勘定	0	0	0						
<b>その他の固定資産</b>	<b>61,261</b>	<b>61,852</b>	<b>591</b>	<b>純資産の部合計</b>	<b>38,128</b>	<b>37,959</b>	<b>△ 169</b>		
資産の部合計	61,261	61,852	591	負債及び純資産の部合計	61,261	61,852	591		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	図書資産 61,852千円	決算額の主な内訳	決算額の主な内訳
主な増減理由	期初額から購入図書1,787千円、寄贈373千円、除籍△1,601千円、特別収入32千円の期中移動があり、図書資産額が591千円増加。	主な増減理由	主な増減理由

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

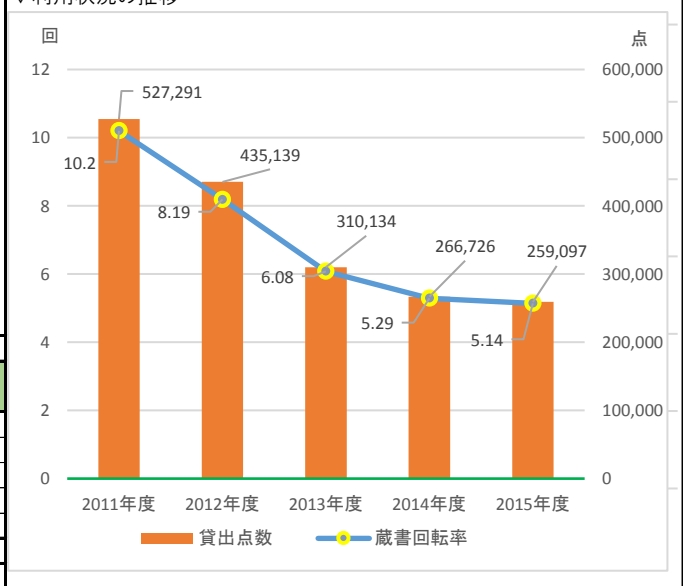


▽事業に関わる人員

業務内容	2015年度					2014年度	
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	合計	合計
図書館管理事務	0.2			0.1		0.3	0.1
各館庶務業務	0.1					0.1	0.3
企画運営業務	0.1			0.1		0.2	0.5
資料貸出・閲覧業務	2.5			4.6	0.5	7.6	8.4
利用援助・普及事業	0.1			0.2		0.3	0.3
2015年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	5.0	0.5	8.5	9.6
2014年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	5.8	0.8	9.6	

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆セルフ貸出機・返却機を設置して業務の効率化を図ったことで、人件費が2014年度より3,430千円減少しました。
- ◆システム更改などが完了したことにより、図書館システムセットアップ委託料が減少しました。一方、ICタグカラーバーコードシステム使用料・図書館情報システムサービス使用料及び書籍配送業務委託料等の経費が配賦されたため、物件費が2014年度より5,452千円増加しました。
- ◆貸出点数は減少し蔵書回転率は0.15ポイント下がりましたが、開館日数が24日増加したことなどにより、貸出者数は2,331人増加しました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆小規模な図書館の特長を活かした蔵書構成や滞在空間の工夫がさらに必要です。
- ◆貸出点数・蔵書回転率を上げるため、利用の多い高齢者のニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、魅力的な図書を選定することが必要です。
- ◇建設後40年以上が経過していることから、施設等の老朽化が進んでいます。引き続き施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、施設や設備の改修を行うことが必要です。

2015年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	金森図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備します。						
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則						
	2013年度	2014年度	2015年度	施設の名称	町田市立金森図書館		
	蔵書数	133,154点	132,121点	132,270点	建設年月日	2000年7月4日	
	予約・リクエスト件数	143,615件	133,082件	136,773件	2013年度	2014年度	2015年度
	貸出者数	197,900人	186,429人	220,476人	資産老朽化比率	-	-

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆職員数・業務スタイルを変更したことにより、読書相談にきめ細かく応じ資料要求に答えるなど、今まで以上に利用者に寄り添った業務スタイルを定着させる必要があります。  
 ◆貸出冊数・蔵書回転率・蔵書更新率を上げるためには、あらゆる分野で魅力的な図書を選定するとともに、より一層の図書の購入が必要です。  
 ◇建設後15年が経過していることから、施設等の老朽化が進んでいます。施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、修繕計画に基づき、施設等の改修を行う必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	-	800,000	
		実績	836,784	771,534	784,361	(2016年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	-	6.02	貸出点数を蔵書数で除したもの(蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	6.28	5.84	5.93	(2016年度)	

成果の説明

- ◆ICタグ導入・システム更改で貸出・返却がセルフ化になり、土日に多かった利用者の待ち時間が短縮されました。
- ◆ボランティアと協働で子ども向け・乳幼児向けおはなし会を開催し、保護者の方も多く参加されています。
- ◆小学校低学年より図書館に興味を持ってもらうことを目的に、年2回のブックトークを行いました。
- ◆小学2年生の社会科授業の一環として図書館見学1校の受け入れを行いました。また、中学2年生の職場体験3期分6名の受け入れを行いました。
- ◆ボランティアと協働して、まちだとしょかん子どもまつりを開催し、216名の参加者がありました。

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	65,528	64,591	59,894	△ 4,697	地方税	0	0	0	0
物件費	15,109	18,746	35,480	16,734	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	5,965	9,513	7,195	△ 2,318	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	1,888	611	1,102	491	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	4	4	その他	629	390	158	△ 232
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	629	390	158	△ 232
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 82,567	△ 85,876	△ 98,661	△ 12,785
賞与・退職手当引当金繰入額	671	2,318	2,339	21	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	83,196	86,266	98,819	12,553	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 82,567	△ 85,876	△ 98,661	△ 12,785
特別費用 (g)	11,405	8,362	3,677	△ 4,685	特別収入 小計 (f)	15,808	0	56	56
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	4,403	△ 8,362	△ 3,621	4,741	当期収支差額 (e)+(h)	△ 78,164	△ 94,238	△ 102,282	△ 8,044

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 16,256千円 再任用職員 3,634千円 嘱託員 34,458千円 臨時職員 5,546千円	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 14,856千円 図書館情報システムサービス使用料 5,337千円 図書館書籍配送業務委託料 880千円 清掃業務委託料 2,978千円など
主な増減理由	システム更改により業務の効率化を図ったため、4,697千円減少。	主な増減理由	ICタグカラーバーコードシステム使用料14,856千円・図書館情報システムサービス使用料5,212千円などの増加。 システム更改時の一時経費3,303千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	特別費用
決算額の主な内訳	駐車場防草工事340千円 建物側防草工事266千円 照明器具修繕 199千円 空調修繕 173千円など	決算額の主な内訳	除籍図書資産額3,677千円
主な増減理由	駐車場及び駐輪場防草工事を行ったことなどにより、491千円増加。	主な増減理由	除籍資料数が減少したため、2014年度よりも4,685千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2015	132,270	747	94	人件費は減少しましたが、物件費が増加したことにより、単位あたりコストが94円増加しました。
		2014	132,121	653	28	
		2013	133,154	625		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2015	1,500	65,901	8,371	人件費は減少しましたが、物件費が増加したことにより、単位あたりコストが8,371円増加しました。
		2014	1,500	57,530	2,048	
		2013	1,500	55,482		
開館日数1日あたりコスト	日	2015	300	329,397	26,709	人件費が減少し、開館日数が15日増えましたが、物件費が増加したため、単位あたりコストが26,709円増加しました。
		2014	285	302,688	28,114	
		2013	303	274,574		

④貸借対照表

(単位:千円)

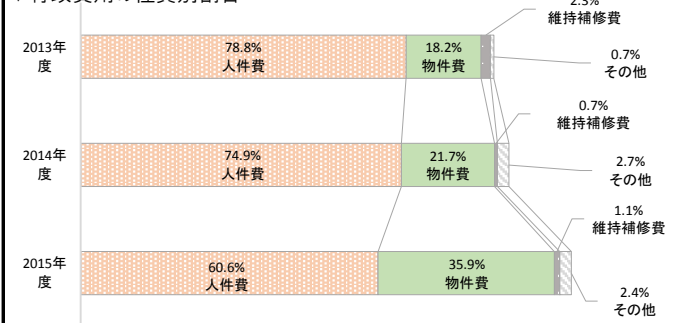
勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	769	786	17
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
	土地	0	0	0	賞与引当金	769	786	17
	建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	14,962	14,879	△ 83
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	14,962	14,879	△ 83
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	その他の固定資産	178,549	180,068	1,519	負債の部合計	15,731	15,665	△ 66
資産の部合計	178,549	180,068	1,519	純資産	162,818	164,403	1,585	
				純資産の部合計	162,818	164,403	1,585	
				負債及び純資産の部合計	178,549	180,068	1,519	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	図書資産 180,068千円	決算額の主な内訳	決算額の主な内訳
主な増減理由	期初額から購入図書4,111千円、寄贈1,029千円、除籍△3,677千円、特別収入56千円の期中移動があり、図書資産額が1,519千円増加。	主な増減理由	主な増減理由

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



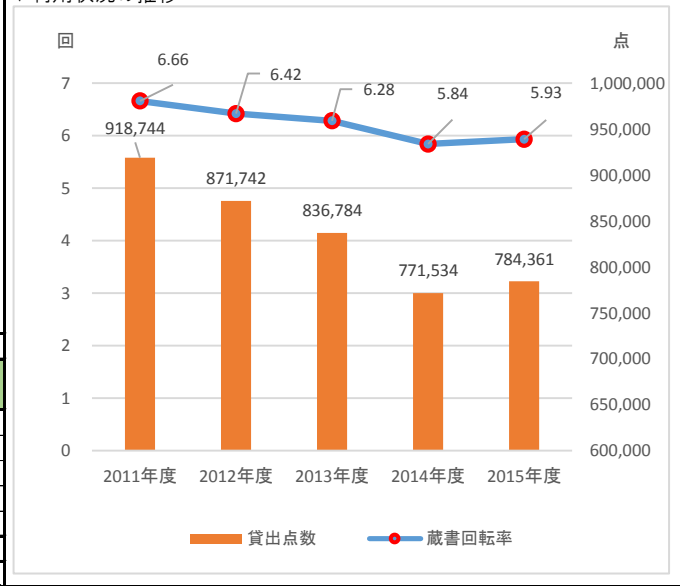
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2015	
						合計	合計
図書館管理事務	0.3		0.3			0.6	0.3
各館庶務事務	0.5		0.2	0.1		0.8	0.6
企画運営業務	0.4			0.2		0.6	1.3
資料貸出・閲覧業務	1.7		0.8	11.4	2.9	16.8	17.4
利用援助・普及事業	0.1			0.9		1.0	0.9
2015年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	12.9	2.9	19.8	20.5
2014年度 特定事業 合計	3.0	0.0	2.0	12.6	2.9	20.5	

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆南地区に位置し、駐車場が併設されているため、家族連れの利用者が車で訪れることが多い図書館です。
- ◆システム更改などが完了したことにより、図書館システムセットアップ委託料が減少しました。一方、ICタグカラーバーコードシステム使用料・図書館情報システムサービス使用料及び書籍配送業務委託料等の経費が配賦されたため、物件費が2014年度より16,734千円増加しました。
- ◆開館日数が15日増加し、貸出冊数は2014年度より12,827冊増加して、蔵書回転率は0.09ポイント上がりました。
- ◆駐車場と入口の間にあった植栽を、歩行者の安全管理のため移植しました。同時に防草施工し除草面積を削減しました。建物側にも防草施工し、駐輪場の整備を行い、駐輪しやすく改善しました。それに伴い維持補修費は491千円増加しました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆魅力ある蔵書を利用者に提供するために、利用が多い家族連れのニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、図書を選定することが必要です。
- ◇建築後15年が経過し、維持管理のための費用が必要になっています。普段からの適正な管理と修繕により、施設の劣化を最小限に抑えること、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えるため、営繕課と調整しながら施設管理を行っていく必要があります。

2015年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	忠生図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報を、「いつでも、どこでも、だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備します。						
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則						
	蔵書数	2013年度	2014年度	2015年度	施設の名称		
	予約・リクエスト件数	—	—	77,515点	建設年月日		
	貸出者数	—	—	104,606人	2015年2月27日		
					2013年度	2014年度	2015年度
				資産老朽化比率	-	-	-

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

2015年度から新規作成
--------------

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	—	—	—	450,000	
		実績	—	—	430,344	(2016年度)	
蔵書回転率	回	目標	—	—	—	5.77	貸出点数を蔵書数で除したもの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	—	—	5.55	(2016年度)	

成果の説明

- ◆市内8番目の図書館として、2015年5月1日に開館しました。
- ◆開館記念イベントとして、おはなし会や紙芝居を開催し、新しい忠生図書館を地域にPRしました。
- ◆子どもセンター「ただON」や生涯学習センターと共催し、本の紹介や特別おはなし会を行い、子どもが図書に関心を持つきっかけをつくりました。
- ◆各方面からの視察や見学の依頼があり、対応の中で町田市の事業の紹介も行いました。
- ◆展示会として、生涯学習総務課と共催した「忠生遺跡縄文時代展」や、「動物の世界-数内正幸絵本原画展」を開催し、多くの方に忠生図書館をアピールしました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	0	0	75,138	75,138	地方税	0	0	0	0
物件費	0	0	39,941	39,941	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	0	0	13,523	13,523	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	0	0	0	0	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	30	30	その他	0	0	180	180
減価償却費	0	0	11,065	11,065	行政収入 小計(a)	0	0	180	180
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	0	0	△ 165,607	△ 165,607
賞与・退職手当引当金繰入額	0	0	39,613	39,613	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	0	0	165,787	165,787	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	0	0	△ 165,607	△ 165,607
特別費用 (g)	0	0	142	142	特別収入 小計 (f)	0	0	33	33
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	△ 109	△ 109	当期収支差額 (e)+(h)	0	0	△ 165,716	△ 165,716

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 37,223千円 嘱託員 34,530千円 臨時職員 3,385千円	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 15,715千円 図書館情報システムサービス使用料 5,646千円 忠生市民センター総合管理業務委託料(忠生図書館) 8,928千円など
主な増減理由		主な増減理由	
勘定科目		勘定科目	
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③ 単位あたりコスト分析

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点当たりコスト	点	2015	77,515	1,679		
		2014				
		2013				
床面積1㎡当たりコスト	㎡	2015	1,266	102,813		
		2014				
		2013				
開館日数1日当たりコスト	日	2015	278	468,207		
		2014				
		2013				

④貸借対照表

(単位:千円)

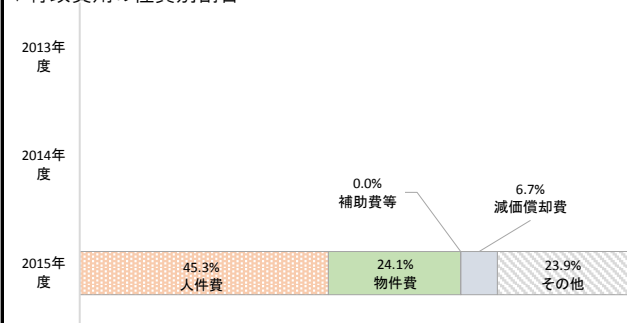
勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	0	1,800	1,800	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金	0	1,800	1,800
		土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	0	0	0	固定負債	0	34,069	34,069
		建物減価償却累計額	0	0	0	地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	0	34,069	34,069
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		土地	0	0	0	負債の部合計	0	35,869	35,869
		工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	0	161,581	161,581
工作物減価償却累計額		0	0	0					
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産	0	197,450	197,450	純資産の部合計	0	161,581	161,581		
資産の部合計	0	197,450	197,450	負債及び純資産の部合計	0	197,450	197,450		

⑤貸借対照表の特記事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	図書資産 117,694千円 忠生図書館書架等備品 79,756千円	決算額の主な内訳	決算額の主な内訳
主な増減理由		主な増減理由	主な増減理由

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



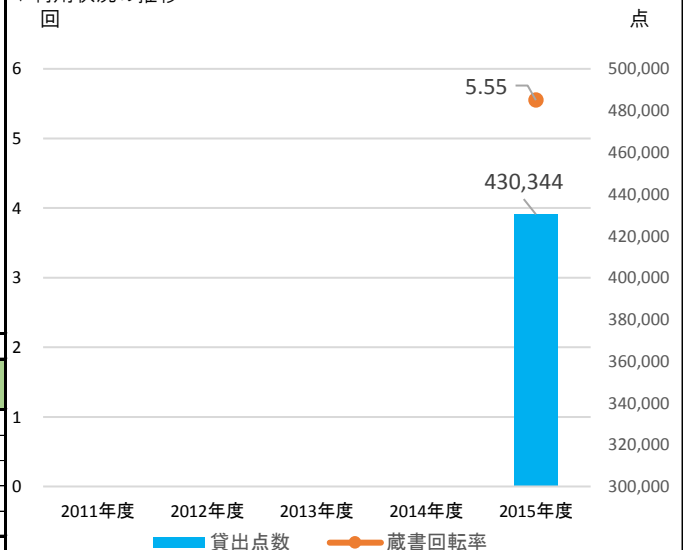
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2015年度	
						合計	2014年度
図書館管理事務	0.5			0.5		1.0	0.0
各館庶務事務	0.9					0.9	0.0
企画運営事務	0.2			0.3	0.1	0.6	0.0
資料貸出・閲覧業務	2.1			9.2	1.7	13.0	0.0
利用援助・利用普及	0.3			1.6		1.9	0.0
2015年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	11.6	1.8	17.4	0.0
2014年度 特定事業 合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆利用者の利便性を向上させるため、予約本コーナーを図書館の外に設置して、図書館閉館後の予約本の借受を可能にしました。
- ◆市民センターの駐車場の利用が可能ですが、自動車よりも徒歩や自転車での来館が多く、地域の方がよく利用する図書館です。
- ◆小中学校が近隣にあるため、小・中学生の利用が多い図書館です。
- ◆生涯学習総務課と共催し「忠生遺跡縄文時代展」を行い、845人の入場者があり、地域に合った情報を発信することができました。
- ◆本と読者を結びつける企画として「動物の世界一敷内正幸絵本原画展」を行い、1,198人の入場者がありました。原画の借受先である敷内正幸美術館のホームページで紹介してもらうことにより、市外の人にも町田市をPRすることができました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆利用者数の増加につなげるため、おはなし会に加え、子どもセンター「ただON」などの関連部署と連携して、イベント、講演会、展示会等を開催し図書館の魅力をアピールする必要があります。
- ◆貸出点数、蔵書回転率を上げるため、幅広い分野で魅力的な図書を選定するとともに、近隣学校の児童、生徒が課題や研究のために必要とする資料を提供できるように蔵書を整えます。また、利用者のライフステージや地域性に合わせた蔵書の特集を設置し、貸出点数の増加につなげる必要があります。

2015年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	木曾山崎図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じて必要となる知識・情報等を、「いつでも、どこでも、だれでも」自由に利用できる環境を整備します。									
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則									
	2013年度			2014年度			2015年度		施設の名称	町田市立木曾山崎図書館
	蔵書数			65,445点			61,352点		60,926点	
	建設年月日			1976年3月25日						
	予約・リクエスト件数			69,488件			58,578件		45,754件	
貸出者数			105,934人			61,022人		89,792人		
資産老朽化比率			74.8%			40.3%		43.1%		

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆職員数・業務スタイルを変更したことにより、読書相談にきめ細かく応じ資料要求に答えるなど、今まで以上に利用者へ寄り添った業務スタイルを定着させる必要があります。  
 ◆貸出冊数・蔵書更新率・蔵書回転率を上げるためには、あらゆる分野で魅力的な図書を選定するとともに、より一層の図書購入が必要です。  
 ◇耐震補強工事は終了しましたが、老朽箇所すべての補修には至っていません。施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、修繕計画に基づき、施設等の改修を行う必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	-	300,000	
		実績	411,770	218,034	287,798	(2016年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	-	4.92	貸出点数を蔵書数で除したもの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	6.29	3.55	4.72	(2016年度)	

成果の説明

- ◆おはなし会・科学あそび・ブックトーク・子ども向け映画会などを積極的に行って、図書館の利用を促進しました。
- ◆地域の小中学校・幼稚園と連携した施設見学の受け入れなどを行って、図書館の仕事を知ってもらいました。
- ◆木曾山崎コミュニティセンターまつりで、チャリティー古本市と子ども映画会を実施しました。
- ◆近隣の小・中学校へ出張ブックトークを行って、子どもが図書へ関心をもつきっかけを作りました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	51,065	49,880	50,252	372	地方税	0	0	0	0
物件費	7,001	9,355	16,454	7,099	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	4,016	6,384	2,412	△ 3,972	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	189	159	376	217	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	材料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	9	9	その他	298	205	66	△ 139
減価償却費	1,152	1,152	3,177	2,025	行政収入 小計(a)	298	205	66	△ 139
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 61,576	△ 63,543	△ 82,318	△ 18,775
賞与・退職手当引当金繰入額	2,467	3,202	12,116	8,914	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	61,874	63,748	82,384	18,636	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 61,576	△ 63,543	△ 82,318	△ 18,775
特別費用 (g)	6,699	8,952	2,898	△ 6,054	特別収入 小計 (f)	43	48	38	△ 10
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 6,656	△ 8,904	△ 2,860	6,044	当期収支差額 (e)+(h)	△ 68,232	△ 72,447	△ 85,178	△ 12,731

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 32,888千円 嘱託員 14,709千円 臨時職員 2,655千円	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 7,857千円 図書館情報システムサービス使用料 2,823千円 図書館書籍配送業務委託料 465千円 清掃業務委託料 1,225千円など
主な増減理由		主な増減理由	ICタグカラーバーコードシステム使用料7,857千円・図書館情報システムサービス使用料2,632千円などの増加。 システム更改時の一時経費5,051千円減少。
勘定科目	特別費用	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	除籍図書資産額 2,898千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	除籍資料数が減少したため、2014年度より6,054千円減少。	主な増減理由	

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	冊	2015	60,926	1,352	313	物件費の増加により、単位あたりコストが313円増加しました。
		2014	61,352	1,039	94	
		2013	65,445	945		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2015	321	256,648	58,056	物件費の増加により、単位あたりコストが58,056円増加しました。
		2014	321	198,592	5,838	
		2013	321	192,754		
開館日数1日あたりコスト	日	2015	300	274,613	△ 147,559	物件費が増加しましたが、開館日数が149日増えたことにより、単位あたりコストが147,559円減少しました。
		2014	151	422,172	217,967	
		2013	303	204,205		



④貸借対照表

(単位:千円)

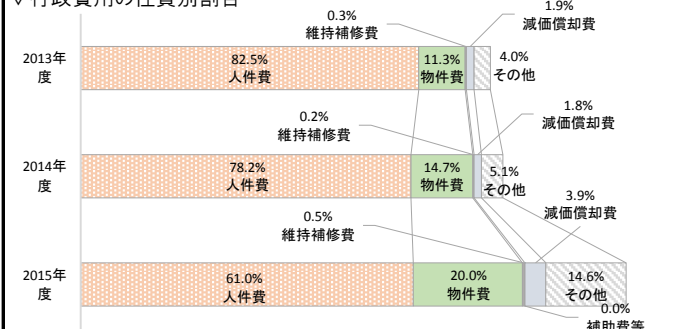
勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,176	1,591	415
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	67,686	64,509	△ 3,177	地方債	0	0	0
	土地	0	0	0	賞与引当金	1,176	1,591	415
	建物(取得価額)	111,462	111,462	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 43,776	△ 46,953	△ 3,177	固定負債	22,882	30,101	7,219
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	22,882	30,101	7,219
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	有形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	土地	0	0	0	負債の部合計	24,058	31,692	7,634
工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	125,160	114,490	△ 10,670	
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0					
その他の固定資産	81,532	81,673	141	純資産の部合計	125,160	114,490	△ 10,670	
資産の部合計	149,218	146,182	△ 3,036	負債及び純資産の部合計	149,218	146,182	△ 3,036	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	
決算額の主な内訳	木曾山崎図書館 111,462千円	決算額の主な内訳	図書資産 81,673千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が3,177千円減少。	主な増減理由	期初額から購入図書資産額2,335千円、寄贈図書資産額666千円、除籍△2,898千円、特別収入38千円の期中移動があり、図書資産額は141千円増加。	主な増減理由	

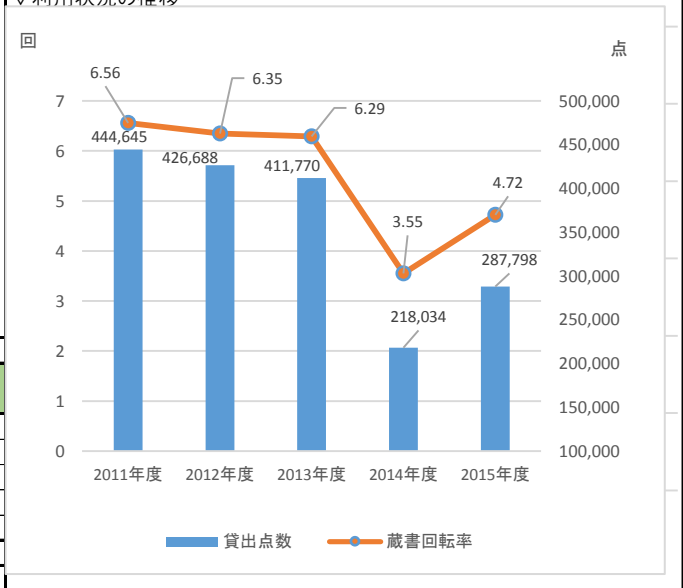
V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI.個別分析

▽利用状況の推移



▽事業に関わる人員

業務内容	(単位:人)					2015	2014
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	合計	合計
図書館管理事務	0.3			0.2		0.5	0.1
各館庶務事務	0.5					0.5	0.3
企画運営事務	0.2			0.1		0.3	0.7
資料貸出・閲覧事業	2.9			4.4	1.5	8.8	9.5
利用援助・普及事業	0.1			0.6		0.7	0.8
2015年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	5.3	1.5	10.8	11.4
2014年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	6.9	0.5	11.4	

VII.総括

①成果および財務の分析

◆2014年度は、耐震補強工事による休館がありました。2015年度は開館日数が149日増加したため、貸出者数は2014年度より28,770人増加し、蔵書回転率も1.17ポイント増えました。ただし、2013年度と比較すると、忠生図書館閉館の影響などにより、貸出点数・蔵書回転率は減少しています。

◆システム更改などが完了したことにより、図書館システムセットアップ委託料が減少しました。一方、ICタグカラーバーコードシステム使用料・図書館情報システムサービス使用料及び書籍配送業務委託料等の経費が配賦されたため、物件費が2014年度より7,099千円増加しました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆小規模な図書館の特長を活かした蔵書構成や滞在空間の工夫が更に必要です。

◆貸出点数・蔵書回転率を上げるため、利用の多い高齢者のニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、魅力的な図書を選定することが必要です。

◇耐震補強工事は完了しましたが、引き続き施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、施設や設備の改修を行うことが必要です。

2015年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	堺図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	--------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備します。						
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則						
	2013年度			2014年度			
	蔵書数	75,432点	74,629点	73,195点	施設の名称	町田市立堺図書館	
	予約・リクエスト件数	30,393件	30,210件	31,145件	建設年月日	1983年9月25日	
	貸出者数	54,154人	47,494人	51,192人	2013年度	2014年度	2015年度
				資産老朽化比率	-	-	-

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆職員数・業務スタイルを変更したことにより、読書相談にきめ細かく応じ資料要求に答えるなど、今まで以上に利用者に寄り添った業務スタイルを定着させる必要があります。  
 ◆貸出冊数・蔵書回転率・蔵書更新率をさらに上げるためには、あらゆる分野で魅力的な図書を選定するとともに、より一層の図書購入が必要です。  
 ◇開館後30年以上が経過していることから、施設等の老朽化が進んでいます。施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、修繕計画に基づき、施設等の改修を行う必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	-	250,000	
		実績	253,195	226,985	227,841	(2016年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	-	3.38	貸出点数を蔵書数で除したもの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	3.36	3.04	3.11	(2016年度)	

成果の説明

- ◆移動図書館車1台が22か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回してサービスを実施することにより、図書館が近隣にない地域の利用者の利便性を高めました。
- ◆乳幼児向けおはなし会・子ども向けおはなし会・映画会を実施し、子どもが図書へ関心を持つきっかけづくりに貢献できました。
- ◆職場体験の中学2年生5名と高校1年生2名を受け入れて、図書館の仕事を知ってもらいました。
- ◆地域の小学校の図書館見学を2回受け入れ、小学生に図書館を身近に感じてもらい、移動図書館の存在も知ってもらいました。

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	46,012	51,945	52,130	185	地方税	0	0	0	0
物件費	6,147	10,894	17,457	6,563	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	2,970	7,773	3,518	△ 4,255	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	383	894	564	△ 330	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	6	6	その他	300	212	44	△ 168
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	300	212	44	△ 168
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 53,090	△ 70,031	△ 74,526	△ 4,495
賞与・退職手当引当金繰入額	848	6,510	4,413	△ 2,097	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	53,390	70,243	74,570	4,327	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 53,090	△ 70,031	△ 74,526	△ 4,495
特別費用 (g)	3,246	5,239	3,137	△ 2,102	特別収入 小計 (f)	11,024	38	111	73
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	7,778	△ 5,201	△ 3,026	2,175	当期収支差額 (e)+(h)	△ 45,312	△ 75,232	△ 77,552	△ 2,320

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 24,822千円 再任用職員 7,268千円 嘱託員 20,040千円	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 7,857千円 図書館情報システムサービス使用料 2,823千円 図書館書籍配送業務委託料 465千円 堺市民センター物件費 4,299千円 など
主な増減理由		主な増減理由	ICタグカラーバーコードシステム使用料7,857千円・図書館情報システムサービス使用料2,639千円増加。 システム更改時の一時経費が4,857千円減少。
勘定科目	特別費用	勘定科目	
決算額の主な内訳	除籍図書資産額 3,137千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	除籍資料数が減少したため、2014年度より2,102千円減少。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2015	73,195	1,019	78	物件費の増加により、単位あたりコストが78円増加しました。
		2014	74,629	941	233	
		2013	75,432	708		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2015	430	173,419	10,063	物件費の増加により、単位あたりコストが10,063円増加しました。
		2014	430	163,356	39,193	
		2013	430	124,163		
開館日数1日あたりコスト	日	2015	300	248,567	△ 7,794	物件費が増加しましたが、開館日数が26日増えたことにより、単位あたりコストが7,794円減少しました。
		2014	274	256,361	80,156	
		2013	303	176,205		

④貸借対照表

(単位:千円)

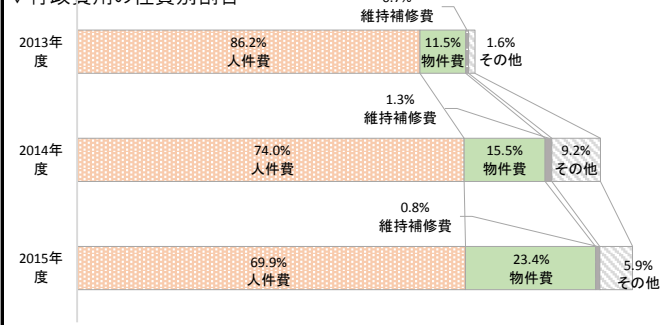
勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,131	1,201	70	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	1,131	1,201	70
		建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	22,002	22,718	716
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	22,002	22,718	716	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
		土地	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	負債の部合計	23,133	23,919	786
工作物減価償却累計額		0	0	0	純資産	109,912	108,715	△ 1,197	
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0						
<b>その他の固定資産</b>		<b>133,045</b>	<b>132,634</b>	<b>△ 411</b>	<b>純資産の部合計</b>	<b>109,912</b>	<b>108,715</b>	<b>△ 1,197</b>	
資産の部合計		133,045	132,634	△ 411	負債及び純資産の部合計	133,045	132,634	△ 411	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	図書資産 132,634千円	決算額の主な内訳	決算額の主な内訳
主な増減理由	期初額から購入図書2,258千円、寄贈357千円、除籍△3,137千円、特別収入111千円の期中移動があり、図書資産額が411千円減少。	主な増減理由	主な増減理由

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



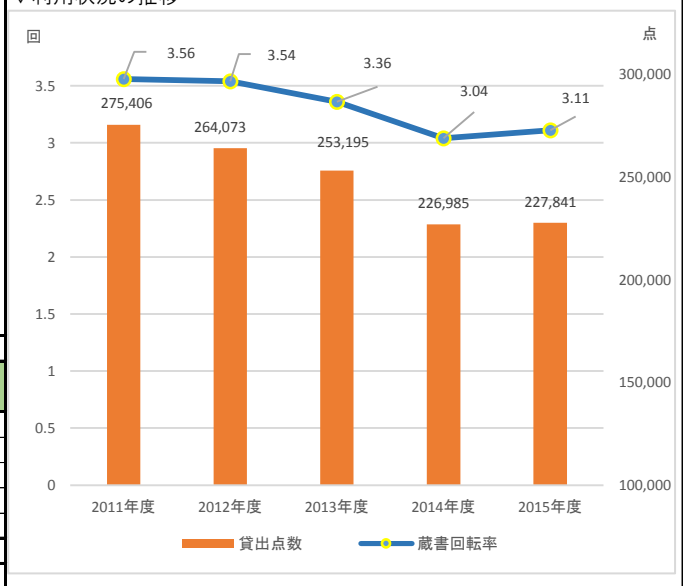
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	合計	
						2015	2014
図書館管理事務	0.2			0.2		0.4	0.1
各館庶務事務	0.6					0.6	0.4
企画運営業務	0.2			0.1		0.3	0.9
資料貸出・閲覧業務	2.0		2.0	6.5		10.5	10.4
利用援助・普及事業				0.2		0.2	0.2
2015年度 特定事業 合計	3.0	0.0	2.0	7.0	0.0	12.0	12.0
2014年度 特定事業 合計	3.0	0.0	2.0	7.0	0.0	12.0	

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆移動図書館のサービスステーションを小山地区に1か所増やし、小山地域住民の図書館サービスの利用を更に進めることができました。
- ◆移動図書館で利用者が受け取るリクエスト資料について、2016年3月から利用者用検索機やホームページからも予約が行えるようになり、利用者へのサービスを拡大しました。
- ◆開館日数が2014年度より26日多くなり、貸出点数が増加したことなどから、蔵書回転率が0.07ポイント上がりました。
- ◆システム更改などが完了したことにより、図書館システムセットアップ委託料が減少しました。一方、ICタグカラーバーコードシステム使用料・図書館情報システムサービス使用料及び書籍配送業務委託料等の経費が配賦されたため、物件費が2014年度より6,563千円増加しました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆読書相談や資料要求に応えるとともに、移動図書館の各サービスステーションの利用状況に合わせた図書を選ぶことが必要です。
- ◆貸出冊数・蔵書回転率を上げるために、地域住民のニーズを把握した上で、魅力的な図書を選定することが必要です。
- ◆複合施設内の図書館であるという利点を活かしたイベント等を企画し、地域へ図書館の魅力をアピールする必要があります。
- ◇堺市民センターと連携し、適切な修繕等を実施し施設の維持を図る必要があります。

2015年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川駅前図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも、どこでも、だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則							
		2013年度	2014年度	2015年度	施設の名称	町田市立鶴川駅前図書館		
	蔵書数	81,588点	88,248点	91,448点	建設年月日	2012年8月31日		
	予約・リクエスト件数	87,337件	86,141件	109,019件		2013年度	2014年度	2015年度
	貸出者数	182,488人	165,695人	199,472人	資産老朽化比率	-	-	-

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆職員数・業務スタイルを変更したことにより、読書相談にきめ細かく応じ資料要求に答えるなど、今まで以上に利用者へ寄り添った業務スタイルを定着させる必要があります。
- ◆貸出冊数・蔵書回転率・蔵書更新率を上げるためには、あらゆる分野で魅力的な図書を選定するとともに、より一層の図書購入が必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	-	620,000	
		実績	633,483	571,598	616,455	(2016年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	-	6.74	貸出点数を蔵書数で除したもの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	7.76	6.48	6.74	(2016年度)	

◆2015年3月のシステム更改時に、セルフ貸出機・返却機など各種新方式のサービスを導入しました。特にセルフ予約資料受取コーナーについては、閉館後の資料受取が可能となり、利用者から喜ばれています。

◆図書館独自企画の特集33回と合わせ、ポプリホール、生涯学習センター、自由民権資料館など他部門との連携特集も9回行いました。

◆中高生に対して、職場体験8名の受け入れに加え、鶴川図書館と合同で出張ブックトークを3回実施し、図書館利用のPRができました。

◆川崎市立も含めた地域の小学校の図書館見学を3回受け入れ、図書館利用について理解してもらうことができました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	85,801	88,321	73,200	△ 15,121	地方税	0	0	0	0
物件費	23,627	32,700	47,635	14,935	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	17,728	26,515	20,505	△ 6,010	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	0	0	37	37	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	2,466	39	△ 2,427	その他	812	381	122	△ 259
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	812	381	122	△ 259
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 116,604	△ 127,890	△ 122,508	5,382
賞与・退職手当引当金繰入額	7,988	4,784	1,719	△ 3,065	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	117,416	128,271	122,630	△ 5,641	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 116,604	△ 127,890	△ 122,508	5,382
特別費用 (g)	346	672	547	△ 125	特別収入 小計 (f)	67	62	1,367	1,305
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 279	△ 610	820	1,430	当期収支差額 (e)+(h)	△ 116,883	△ 128,500	△ 121,688	6,812

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 35,531千円 嘱託員 33,291千円 臨時職員 4,378千円	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム利用料 15,715千円 図書館情報システムサービス利用料 5,646千円 図書館書籍配送業務委託料 931千円 総合管理業務委託料 18,674千円 など
主な増減理由	システム更改により業務の効率化を図ったため、15,121千円減少。	主な増減理由	ICタグカラーバーコードシステム使用料15,715千円・図書館情報システムサービス使用料5,334千円などの増加。 システム更改時の一時経費8,257千円減少。
勘定科目	補助費等	勘定科目	特別費用
決算額の主な内訳	建築設備定期点検負担金 30千円 など	決算額の主な内訳	除籍図書資産額 547千円
主な増減理由	システム更改完了により2,436千円の減少。	主な増減理由	除籍資料数が減少したため、は2014年度より125千円減少。

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2015	91,448	1,341	△ 113	システム更改完了により人件費などが減少したことで、単位あたりコストが113円減少しました。
		2014	88,248	1,454	15	
		2013	81,588	1,439		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2015	1,344	91,243	△ 4,197	システム更改完了により人件費などが減少したことで、単位あたりコストが4,197円減少しました。
		2014	1,344	95,440	8,077	
		2013	1,344	87,363		
開館日数1日あたりコスト	日	2015	300	408,767	△ 61,090	システム更改完了により人件費などが減少したこと、開館日数が2014年度より27日増えたことにより、単位あたりコストが61,090円減少しました。
		2014	273	469,857	82,345	
		2013	303	387,512		

④貸借対照表

(単位:千円)

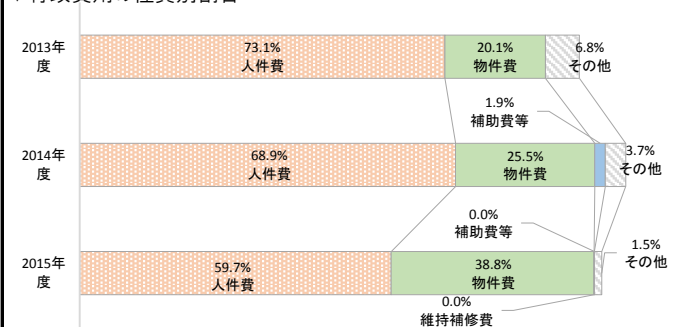
勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,922	1,719	△ 203	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金	1,922	1,719	△ 203
		土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	0	0	0	固定負債	37,404	32,520	△ 4,884
		建物減価償却累計額	0	0	0	地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	37,404	32,520	△ 4,884
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		土地	0	0	0	負債の部合計	39,326	34,239	△ 5,087
		工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	84,973	94,557	9,584
工作物減価償却累計額		0	0	0					
無形固定資産	0	0	0						
建設仮勘定	0	0	0						
<b>その他の固定資産</b>		<b>124,299</b>	<b>128,796</b>	<b>4,497</b>	純資産の部合計	84,973	94,557	9,584	
資産の部合計		124,299	128,796	4,497	負債及び純資産の部合計	124,299	128,796	4,497	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	図書資産 128,796千円	決算額の主な内訳	決算額の主な内訳
主な増減理由	期初額から購入図書3,649千円、寄贈1,338千円、除籍△547千円、特別収入57千円の期中移動があり、図書資産額が4,497千円増加しました。	主な増減理由	主な増減理由

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

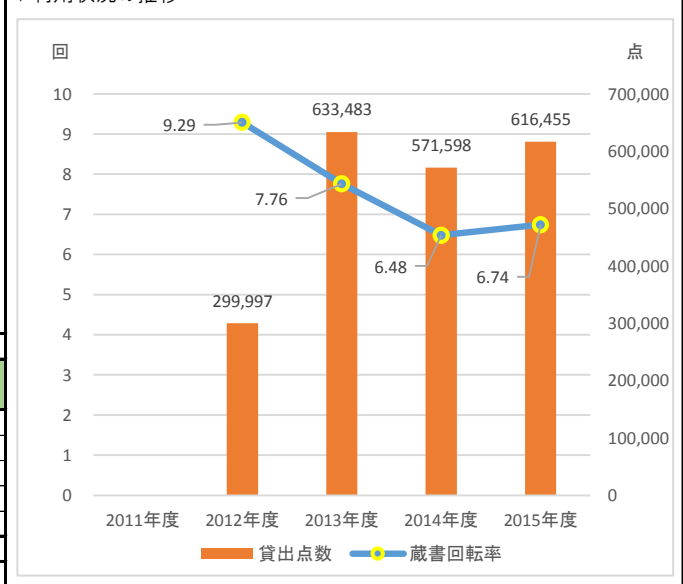


▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	(単位:人)	
						2015 合計	2014 合計
図書館管理事務	0.4			0.2		0.6	0.2
各館庶務事務	0.4					0.4	0.3
企画運営業務	0.2			0.1		0.3	0.7
資料貸出・閲覧業務	3.8			10.2	2.3	16.3	19.3
利用援助・普及事業	0.2			0.8		1.0	0.4
2015年度 特定事業 合計	5.0	0.0	0.0	11.3	2.3	18.6	20.9
2014年度 特定事業 合計	5.0	0.0	1.0	13.5	1.4	20.9	

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆セルフ予約資料受取コーナーの設置によって、閉館後の資料受取が可能となりました。
- ◆カウンター職員がフロアでの利用者対応を行えるように業務スタイルを変更したことにより、読書相談件数は2014年度よりも3,351件増えて12,365件となりました。
- ◆システム更改などが完了したことにより、図書館システムセットアップ委託料が減少しました。一方、ICタグカラーバーコードシステム使用料・図書館情報システムサービス使用料及び書籍配送業務委託料等の経費が配賦されたため、物件費が2014年度より14,935千円増加しました。
- ◆蔵書点検期間の短縮により、開館日及び貸出点数が増加し、蔵書回転率は0.26ポイント上がりました。
- ◆セルフ貸出機・返却機・予約資料受取コーナーを設置して業務の効率化を図ったことで、人件費が2014年度より15,121千円減少しました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆駅前立地する図書館として、利用が多い通勤・通学者のニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、図書を選定することが必要です。
- ◆ホールや会議室を持つ複合施設内の図書館として、施設内で行われる事業と連携したイベントを行い、図書館を利用していない層に対して図書館の魅力をアピールする必要があります。
- ◆地域に必要とされる里山や身近な自然に関する資料を充実させる必要があります。

2015年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	文学館費
				事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)

I. 組織概要

組織の使命	町田市にゆかりの文学者の著作、原稿、愛用品その他の資料及び市民の文学的著作等を収集・保存し、展示や講座・講演会などを通して文学の魅力を市民に発信し、文学に関する調査研究及び知識の普及活動を行うとともに、それを支援することにより市民が文学にふれあえる機会をつくります。						
所管事務	◆文学やことばに関する展覧会を開催すること。・文学に関する講演会、講座、ワークショップを開催すること。 ◆文学資料の収集、保存及び公開に関すること。・文学館資料の閲覧及び貸出しに関すること。 ◆市民の文学に関する活動の支援に関すること。・文学に関する調査研究を行い情報を提供すること。 ◆文学館の広報活動に関すること。・文学に関する出版物等の作成及び販売に関すること。						
基本情報	根拠法令等					施設の名称	町田市民文学館ことばらんど
	利用料金収入 (単位:千円)	2013年度	2014年度	2015年度	建設年月日	2006年6月1日	
	受益者負担比率	1.7%	2.0%	1.5%	2013年度	2014年度	2015年度
					資産老朽化比率	14.1%	16.1%

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆開館以来の来館者数はおおむね増加傾向でしたが、2014年度は2013年度と比較して減少しました。魅力ある展示やライブステージに応じた講座・講演会・ワークショップなどを展開していくことで文学活動を支援し、関連施設等との連携や市民やマスメディアへのPRの手法を検討し発信することが必要です。  
 ◆効率的で効果的な事業を実施するとともに、会議室利用の稼働率の向上や、その他の収入についても引き続き検討する必要があります。  
 ◇開館してから8年が経過し、今後経年老朽化に伴う修繕箇所等の増加が見込まれるため、施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、修繕計画に基づき施設等の改修を行うことが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
展覧会観覧者数	人	目標	(23,000)	(25,000)	(25,000)	25,000	原則年4回開催している展覧会の観覧者数
		実績	14,902	22,259	19,796	(2018年度)	
来館者数	人	目標	(61,000)	(65,000)	(65,000)	66,000	展覧会の観覧、会議室の利用、図書資料の閲覧・貸出、イベントの参加等の来館者数。
		実績	66,971	63,788	57,712	(2016年度)	
成果の説明	◆展覧会観覧者数・来館者数は2014年度と比較して減少しましたが、夏展では近隣2施設と連携して実施したスタンプラリーに前年比87%増の885人の参加がありました。また、秋展では町田にゆかりの作家と併せて全国的に有名な作家を取り上げたことなどにより、市外からの来館者の増加を図ることができました。 ◆文学館まつりを市民、町内会、サークルなどと連携し実施したことにより、過去最高の1,170人の来館があり、地域の賑わいを創出できました。 ◆市民協働によるイベントを4事業で6回実施し483人の参加があり、市民が文学と触れ合う機会を提供できました。 ◆開館後10年を機に、今後10年の町田市民文学館のあり方について検討を行うための第3期町田市民文学館運営協議会を立ち上げました。						

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	76,948	79,370	83,446	4,076	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	2,778	3,065	6,756	3,691	保険料	0	0	0	0
物件費	34,646	35,514	38,348	2,834	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	16,499	18,260	17,092	△ 1,168	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	451	461	1,124	663	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	2,441	2,847	2,143	△ 704
補助費等	2,555	2,571	2,179	△ 392	その他	909	1,300	1,153	△ 147
減価償却費	13,423	13,423	13,423	0	行政収入 小計(a)	3,350	4,147	3,296	△ 851
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 140,709	△ 135,937	△ 144,193	△ 8,256
賞与・退職手当引当金繰入額	16,036	8,745	8,969	224	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	144,059	140,084	147,489	7,405	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 140,709	△ 135,937	△ 144,193	△ 8,256
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 140,709	△ 135,937	△ 144,193	△ 8,256

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 57,549千円 再任用職員 3,645千円 嘱託員 17,525千円 臨時職員 4,727千円	決算額の主な内訳	施設貸出・管理業務委託 4,358千円 ICタグカラーバーコードシステム使用料 4,174千円 清掃業務委託 3,023千円 光熱水費 7,765千円など
主な増減理由	運営協議会の立ち上げ及び運営のための事務量の増加等により、時間外手当3,691千円の増加。	主な増減理由	ICタグカラーバーコードシステム・図書館情報システムサービス使用料等の集中管理経費を配賦したことで6,421千円の増加。資料の修復点数を減らしたことで、修復委託料578千円の減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	大会議室内AV機器修繕 390千円 GHPエアコン室内熱交換器等修繕 344千円 電気温水器及び自動水栓修繕 254千円など	決算額の主な内訳	施設使用料 1,806千円 附属設備使用料 90千円 展覧会観覧料 247千円
主な増減理由	開館後9年が経過し、施設設備の故障が増加したことにより修繕料663千円の増加。	主な増減理由	秋の有料展の観覧者数が6,336人から2,667人へ減少したことで、展覧会観覧料722千円の減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
町田市民文学館来館者数1人あたりコスト	人	2015	57,712	2,556	360	来館者数が減少したことから1人あたりのコストは360円増加しました。
		2014	63,788	2,196	45	
		2013	66,971	2,151		
開館日数1日あたりコスト	日	2015	303	486,762	22,908	物件費などの増加等により、行政費用が増加したことから1日あたりのコストは22,908円増加しました。
		2014	302	463,854	△ 11,588	
		2013	303	475,442		

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	2,426	2,553	127
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	784,677	771,254	△ 13,423	地方債	0	0	0
	土地	220,902	220,902	0	賞与引当金	2,426	2,553	127
	建物(取得価額)	671,161	671,161	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 107,386	△ 120,809	△ 13,423	固定負債	47,214	48,320	1,106
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	47,214	48,320	1,106
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	有形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	土地	0	0	0	負債の部合計	49,640	50,873	1,233
工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	735,037	720,381	△ 14,656	
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0	純資産の部合計	735,037	720,381	△ 14,656	
その他の固定資産	0	0	0	負債及び純資産の部合計	784,677	771,254	△ 13,423	
資産の部合計	784,677	771,254	△ 13,423					

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	町田市文学館ことばらんど 220,902千円	決算額の主な内訳	町田市文学館ことばらんど 671,161千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が13,423千円減少。	主な増減理由	

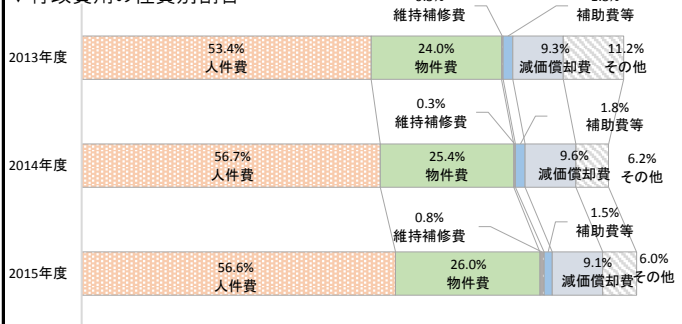
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	3,295	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	132,832	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 129,537	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 129,537
				一般財源充当調整額	129,537

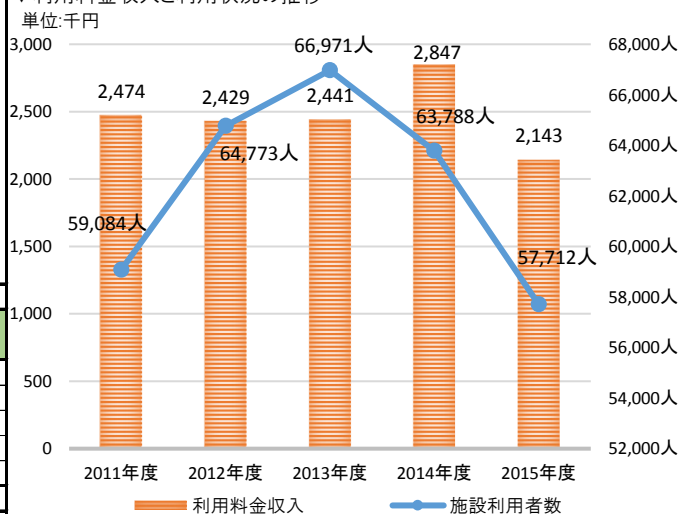
V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用		嘱託	臨時	2015年度		2014年度	
		フルタイム	短時間			合計	合計		
管理事務	3.1		0.1	0.3		3.5	3.7		
展示事業	1.8		0.1	1.6	1.1	4.6	4.7		
学習事業	0.4		0.2	1.8	0.6	3.0	3.2		
資料収集事業	0.4		0.3	1.8	0.1	2.6	2.7		
資料貸出・閲覧事業	0.3		0.3	0.7	0.4	1.7	1.9		
2015年度 歳出目 合計	6.0	0.0	1.0	6.2	2.2	15.4	16.2		
2014年度 歳出目 合計	6.0	0.0	1.0	6.1	3.1	16.2			

VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆ 展覧会観覧者数・来館者数は2014年度と比較して減少となりましたが、近隣2施設と連携してスタンプラリーを実施し、過去最高の参加者があり市外からの来館者の増加を図ることができました。秋展では、町田にゆかりの作家の顕彰と全国的に人気のある作家を併せて取り上げたことにより、全国から多くの方にご来館いただくとともに、町田の文化的な魅力をPRすることができました。
- ◆ 会議室利用の稼働率は2014年度と比較し58.7%から60.4%へと1.7ポイント上昇しました。
- ◆ ICタグカラーバーコードシステム・図書館情報システム使用料等の集中管理経費を配賦したことなどにより行政費用が増加したことで、2015年度の受益者負担比率は、2014年度と比較して0.5ポイント低下しました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆ 2013年度をピークに来館者数が減少しているため、市内外へ文学館をアピールするため効果的に情報発信をする必要があります。
  - ◆ 会議室の稼働率が2014年度と比較して上昇していることから、会議室の利用者のニーズを把握し展示の観覧や学習事業への参加を促すための検討が必要です。
  - ◆ 町田市民文学館運営協議会の審議内容を踏まえ、文学館の事業や施設のあり方について検討する必要があります。
- ◇ 開館後9年が経過し、老朽化による施設設備の故障等が発生しており、来館者の利用環境を整えるため計画的に修繕することが必要です。

